

時事経済情報 No. 94

2023年2月24日

福井県立大学客員教授

丹羽連絡事務所チーフエコノミスト

中島 精也

目次

- I 米国経済
- II 欧州経済
- III 中国経済
- IV 日本経済
- V マーケット動向

I 米⼭国経済

1. FOMCは利上げ幅を通常の0.25%に縮める

①1月31～2月1日の米連邦公開市場委員会(FOMC)はFF金利を0.25%引き上げ、レンジを4.5～4.75%とした。利上げ幅は4回連続0.75%から前回0.5%に減速、今回はオーソドックスな0.25%ペースに減速させた。

②声明文は「インフレの水準は高いが、低下してきている」とプラスに評価しており、これが利上げ幅縮小の要因と思われる。

③但し、「利上げの継続は適切であるが、それは2%インフレに戻るに十分な引き締めスタンスを維持する必要があるからだ」という箇所は変わらないので、まだ利上げは終了ではない。

④今後の利上げペースについても「引き締め政策の累積効果を見極めなければならない、経済活動やインフレへの影響にはラグがあるからだ」としている。

④バランスシートの縮小は昨年5月に決めたプラン通り、昨年9月以降は満期が来た国債のうち600億ドル/月を超える分しか

再投資しない。満期が来たエージェンシー債やMBS(住宅ローン担保証券)も9月以降は350億ドル/月を超える分しか再投資しない。

⑤パウエル議長は記者会見で「インフレ圧力が弱まったのは勇気づけられる」としつつも、「インフレが持続的な低下傾向に入ったか更なるエビデンスが必要」と述べ、早過ぎる利上げ打止めによる高インフレの継続と、逆に引き締め強化に追い込まれるリスクを回避したい思いを伝えていたが、市場は「インフレ圧力の弱まり」にポジティブに反応して株価が上昇した。



2. 米GDP10～12月期は在庫投資増が大きく寄与

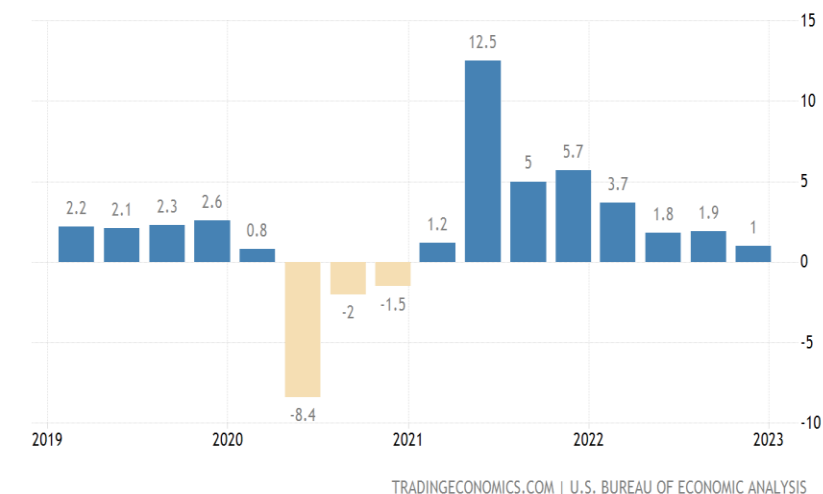
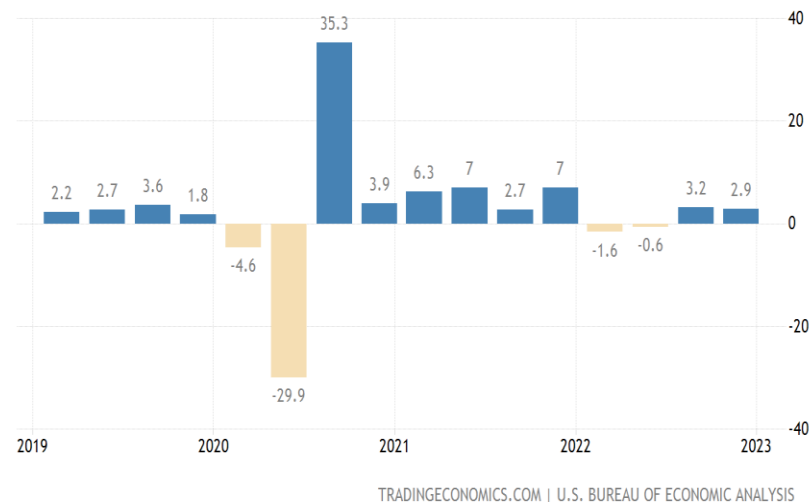
①10～12月期の実質GDP(速報)前期比は+2.9%(前期比年率、右上図)と2四半期連続のプラス。前年比は+1.0%(右下図)。

②10～12月期の内需の寄与度は+2.33%、外需の寄与度は+0.56%と内需主導の成長となっているが、在庫投資の寄与度が+1.46%と成長率の半分を占める。

③個人消費の伸びは+2.1%(モノ+1.1%、サービス+2.6%)で寄与度は+1.42%。設備投資は+0.7%で寄与度は+0.09%。住宅投資の伸びは▲26.7%、在庫投資の寄与度は+1.46%、政府支出の伸びは+3.7%(連邦+6.2%、地方+2.3%)で寄与度は+0.64%

④輸出の伸びは▲1.3%、輸入は▲4.6%。

⑤名目GDPの伸びは+6.5%、GDP物価指数は+3.5%。



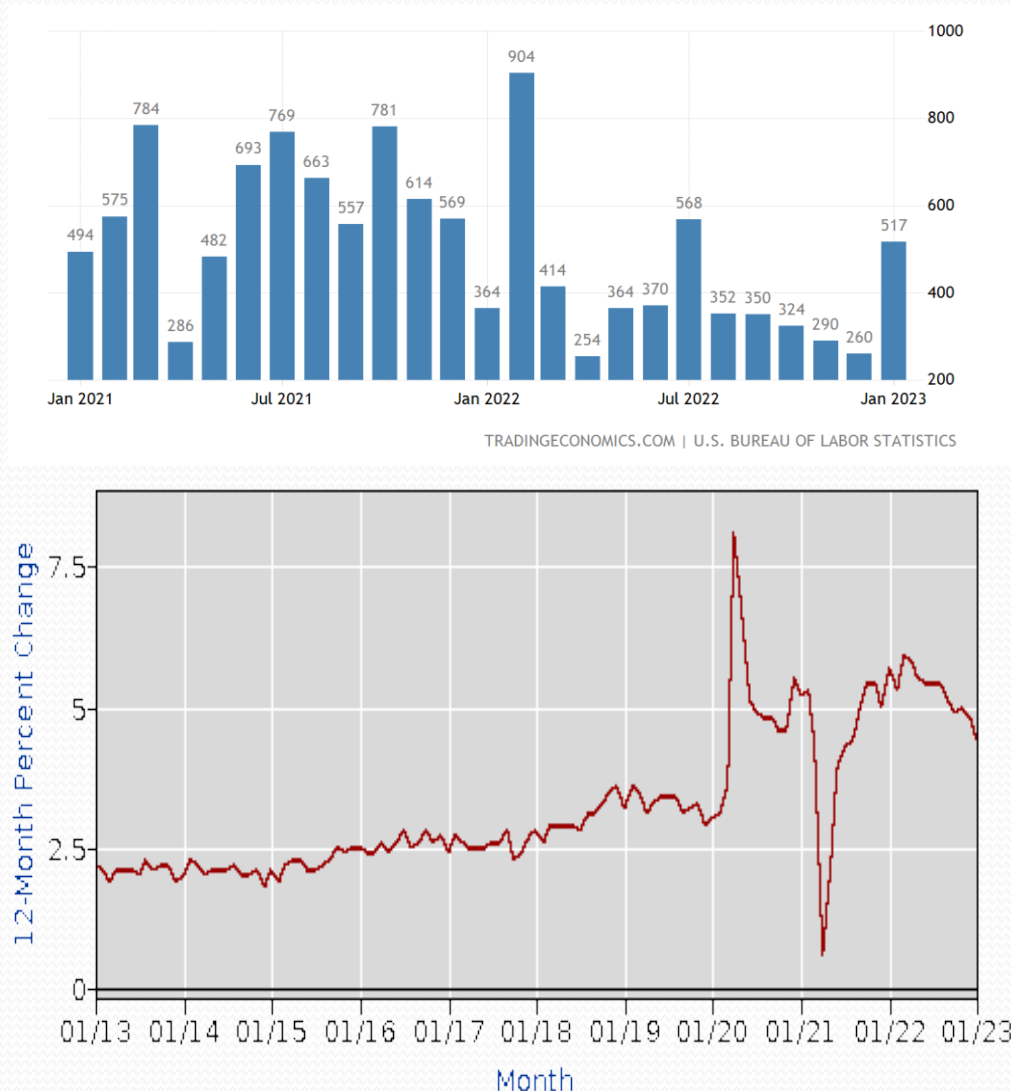
3. 米雇用統計1月は予想外の強い数字

①1月の雇用者数の前月比(右上図)は+51.7万人の増加で事前予想の+19万人を大きく上回った。

②雇用増加は広範囲に及び、業種別ではレジャー・接客業+12.8万人、専門・ビジネスサービス+8.2万人、ヘルスケア+5.82万人、建設+2.5万人。減少は自動車・部品の▲0.65万人

③失業率は3.4%と前月比▲0.1ポイントの低下。労働参加率は62.4%と+0.1ポイント上昇。

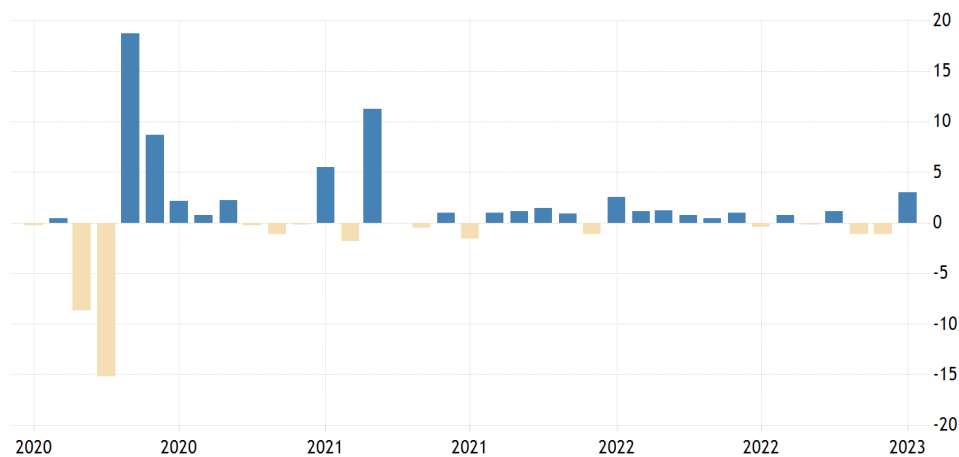
④時間当たり賃金は前月比+10セント上昇して33.03ドルに、前年比(右下図)は+4.4%と前月比▲0.4ポイントの低下。



4. 米小売売上高は3ヶ月ぶりに増加、堅調さ保つ

①1月の小売売上高は前月比(右上図)
+3.0%、前年比(右下図)は+6.5%。

②業種	前月比	前年比
自動車	+5.9%、	+3.8%
家具	+4.4%、	+3.8%
電気製品	+3.5%、	▲6.3%
建設資材園芸用品	+0.3%、	+1.1%
食料品店	+0.1%、	+6.2%
健康ケア	+1.9%、	+3.6%
ガソリンスタンド	0.0%、	+5.7%
衣服アクセサリー	+2.5%、	+6.3%
スポーツ用品・趣味		
・書籍・音楽	+0.2%、	+6.9%
総合スーパー	+3.2%、	+4.5%
無店舗販売	+1.3%、	+3.0%
飲食業	+7.2%、	+25.2%
合計	+3.0%、	+6.4%



TRADINGECONOMICS.COM | U.S. CENSUS BUREAU

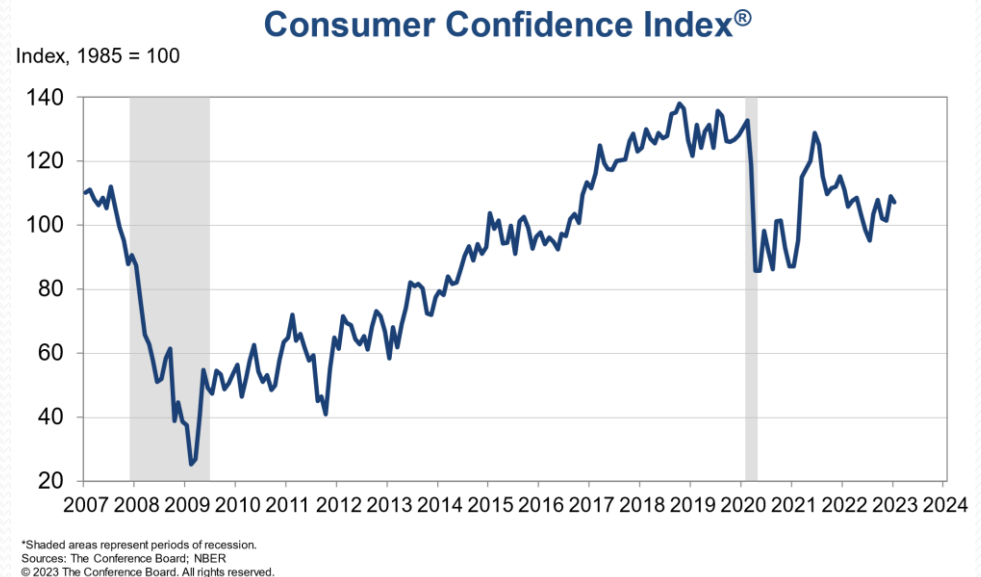


TRADINGECONOMICS.COM | U.S. CENSUS BUREAU

5. 米消費者信頼感指数は一進一退

①2月のミシガン大学消費者信頼感指数(速報、右上図)は、66.4で前月比+1.5ポイントの上昇。現状指数は68.4から72.6に上昇、期待指数は62.7から62.3に低下。

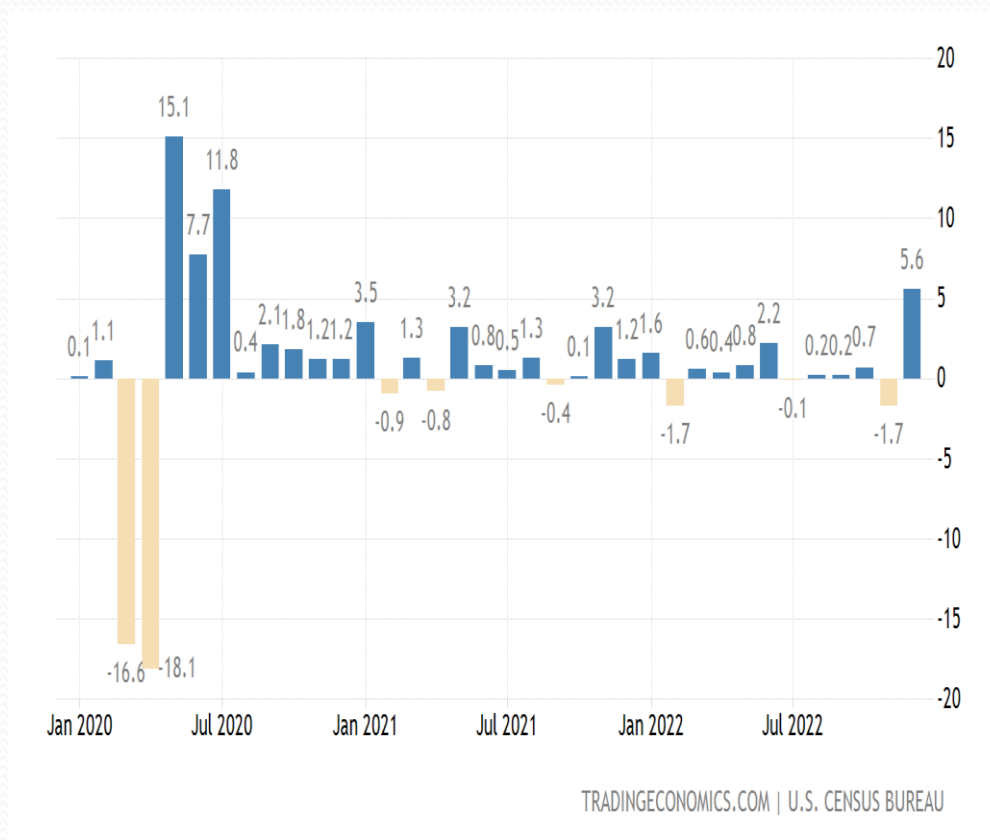
②1月コンファレンスボード消費者信頼感指数(右下図)は107.1で前月比▲1.9ポイントの低下。現状指数は12月147.4→1月150.9に上昇、期待指数は12月83.4→1月77.8に低下。



6. 米耐久財新規受注は航空機大幅増が主導

①12月の耐久財新規受注(速報)は航空機受注の大幅増加により前月比(右図)+5.6%、前年比は+11.1%。輸送機器を除く耐久財新規受注は前月比▲0.1%、前年比+0.4%、国防を除く耐久財新規受注は前月比+6.3%、前年比+10.7%

②民間設備投資の先行指標となる非国防資本財から航空機を除いたコア資本財受注は前月比▲0.2%、前年比+3.3%。

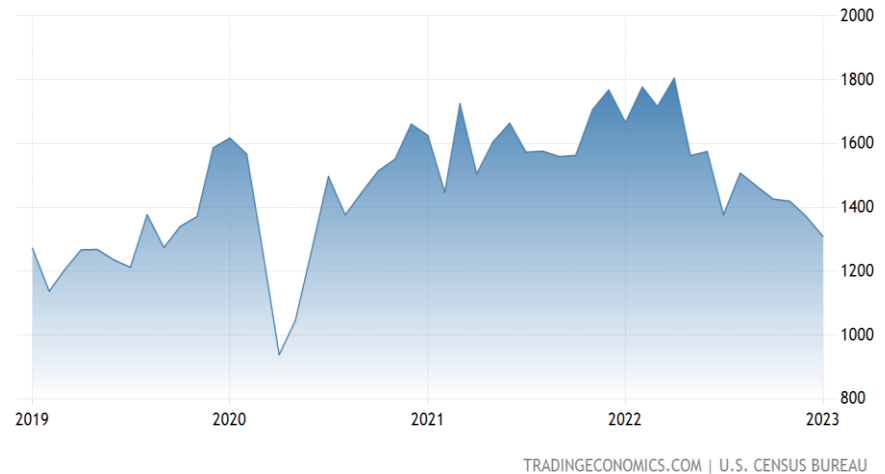


7. 米住宅着工は金利高止まりで下降

①1月の米住宅着工戸数は年率130.9万戸(右上図)、前月比は▲4.5%、前年比は▲21.4%と弱い。住宅ローン金利(右下図)は6.4%にやや上昇した。一戸建は前月比▲4.3%、前年比は▲27.3%、集合住宅(5件以上)は前月比▲5.4%、前年比は▲8.4%。地域別は前月比、前年比で北東部▲42.2%、+13.3%、中西部▲25.9%、▲37.2%、南部+7.3%、▲17.3%、西部+5.5%、▲31.2%。

②11月のケースシラー住宅価格指数(全米)は前月比▲0.6%、前年比+7.7%。

③12月の新築住宅販売戸数(右下図)は年率61.6万戸、前月比+2.3%、前年比▲26.6%。地域別前月比、前年比は北東部▲19.4%、▲21.6%、中西部+35.2%、▲14.1%、南部+6.5%、▲17.5%、西部▲15.3%、▲49.6%。販売在庫比率は9.0ヶ月と前月より▲0.2ヶ月低下。



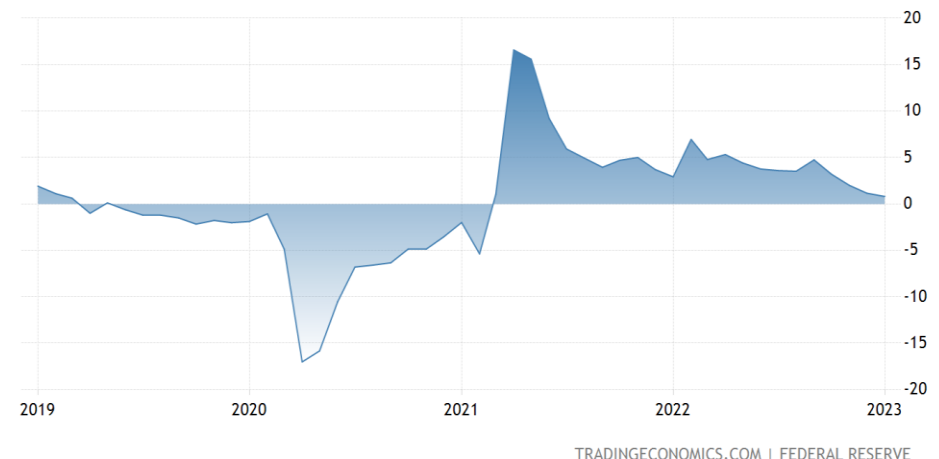
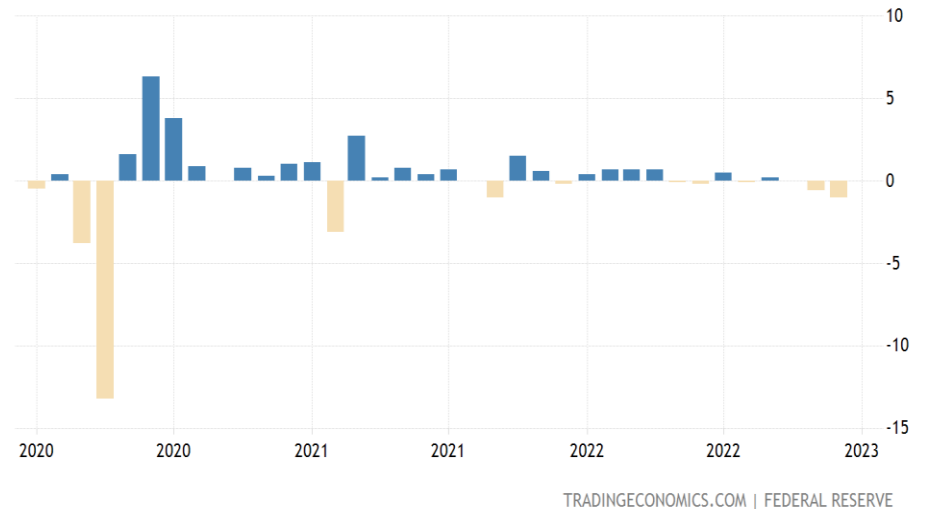
8. 米鋁工業生産は減速傾向が続く

①1月の米鋁工業生産指数は前月比0.0%（右上図）。前年比は+0.8%（右下図）。

②鋁業の前月比は+2.0%、前年比は+8.6%、公益事業の前月比は▲9.9%、前年比▲8.9%。

③製造業の前月比は+1.0%、前年比は+0.3%。うち自動車及び部品はそれぞれ+0.5%、+4.7%、コンピュータ・電子機器は+1.1%、▲1.4%、航空機は+1.1%、+10.2%、金属製品+0.4%、+2.4%、食料・飲料・タバコ+1.7%、▲0.4%、化学は+1.6%、+0.7%。

④設備稼働率指数（製造業）は77.7と前月比+0.6ポイント上昇。長期平均78.2を▲0.5ポイント下回る。



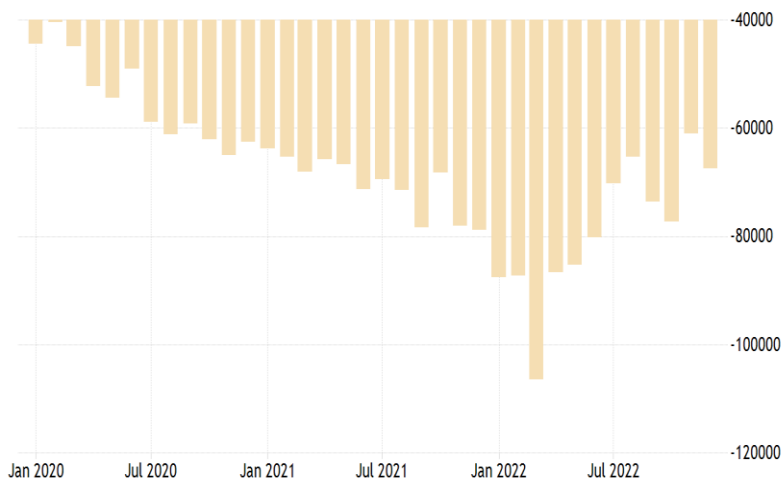
9. 米貿易収支は輸入増加で赤字が拡大

①12月の貿易・サービス収支(季調済、左下図)は前月比▲64億ドルの悪化して▲674億ドルの赤字に拡大。

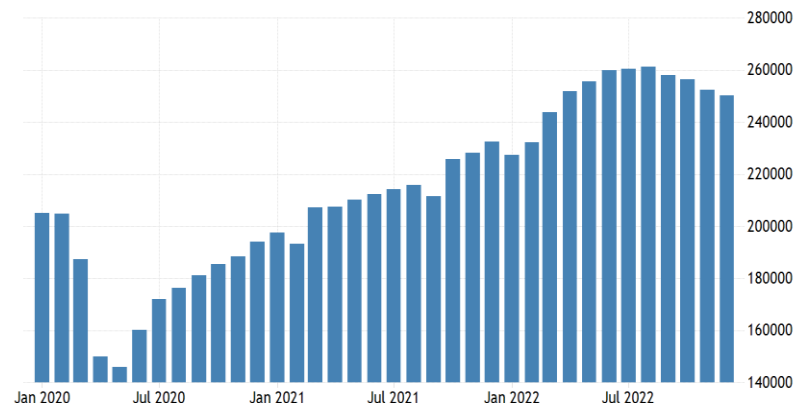
②財・サービス輸出(右上図)は前月比▲22億ドル減の2,502億ドル(前年比+7.6%)。前月比で工業用原材料▲31億ドル、食飲料▲7億ドル、消費財▲10億ドル。

③財・サービス輸入(右下図)は前月比+42億ドル増の3,176億ドル(前年比+2.0%)。前月比で工業用原材料▲27億ドル、消費財+41億ドル、自動車・部品+29億ドル。

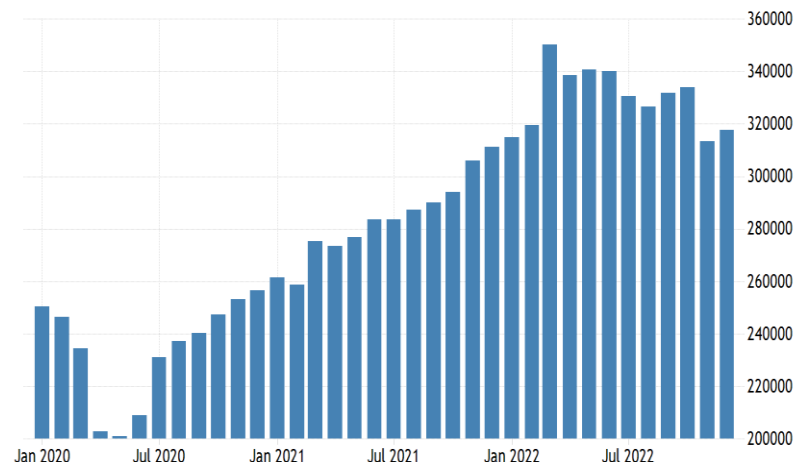
④対中輸出は137.9億ドルで前年比+3.3%、対中輸入は373.03億ドルで前年比▲24.7%。都市封鎖の影響。



TRADINGECONOMICS.COM | BUREAU OF ECONOMIC ANALYSIS (BEA)



TRADINGECONOMICS.COM | U.S. CENSUS BUREAU



TRADINGECONOMICS.COM | U.S. CENSUS BUREAU

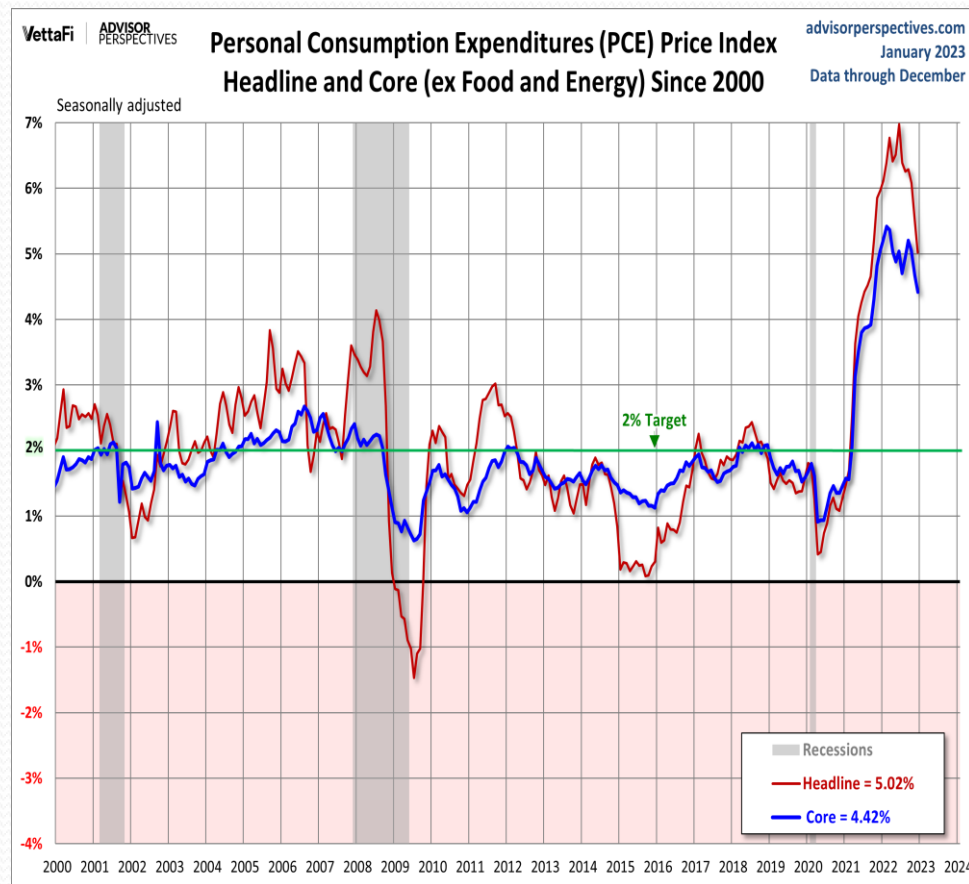
10. 米PCEコア物価指数は依然水準が高い

①12月のPCE(個人消費支出)総合物価指数の前年比(右図赤線)は+5.0%と前月より▲0.5ポイント低下。前月比は+0.1%。

②エネルギーと食料を除くコアPCE物価指数の前年比(右図青線)は+4.4%と前月より▲0.3ポイント低下。Fedの物価目標2%を上回る。前月比は+0.3%

③財価格の前年比+4.6%、前月比は+0.1%、サービス価格の前年比は+5.2%と変わらず、前月比は+0.5%。エネルギー価格の前年比は+6.9%、前月比は▲5.1%。

④期待インフレ率指標(BEI)は2月21日時点で10年物は2.42%、5年物も2.42%と0.2ポイント上昇。

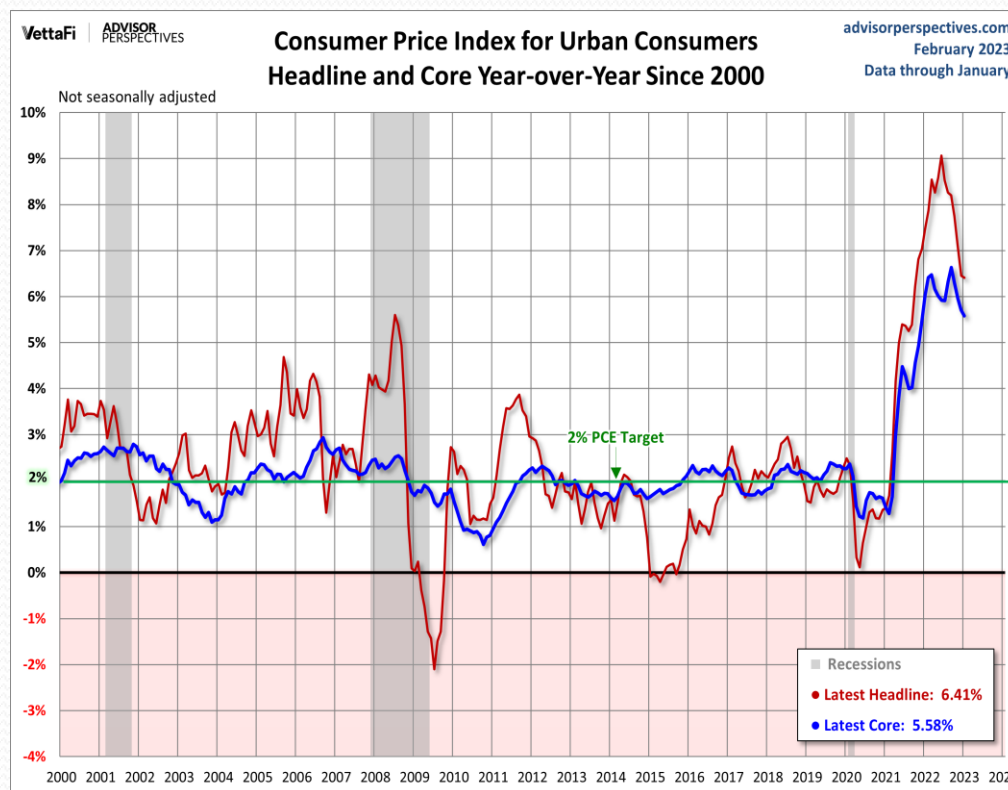


11. 米消費者物価は前月比加速で前年比高止まり

①1月のCPI（消費者物価指数）総合の前年比（右図）は+6.4%と前月より▲0.1ポイント伸びが低下した。前月比は逆に+0.5%と加速。

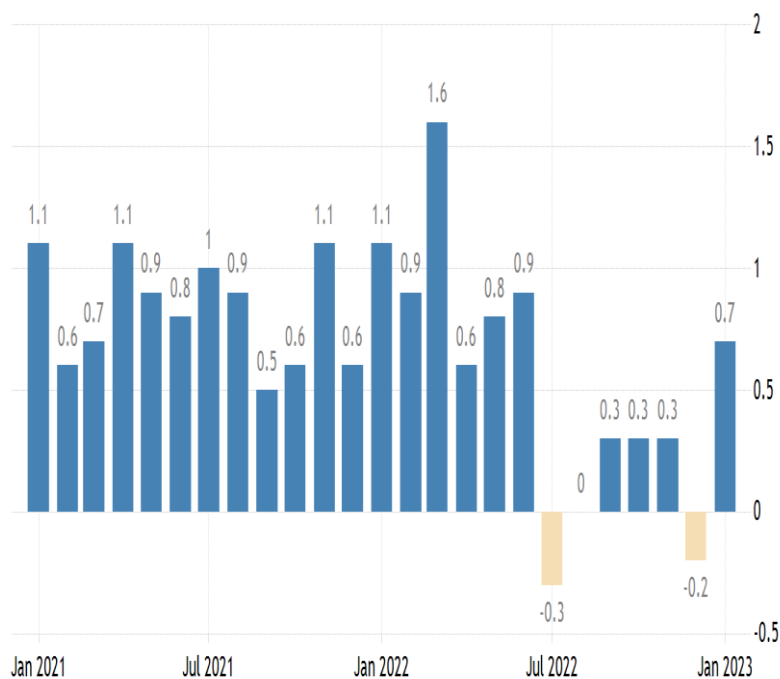
②エネルギーの前年比は+8.7%（うちガソリン+1.5%、燃料油+27.7%、電気+11.9%、都市ガス+26.7%）、前月比は+2.0%（うちガソリンは+2.4%、燃料油は▲1.2%、電気+0.5%、都市ガス+6.7%）。

③エネルギーと食料を除くコアCPIの前年比（右図青線）は+5.6%と前月より▲0.1ポイント伸びが低下。前月比は+0.4%。



12. エネルギーで米生産者物価前月比は高い伸び

1月のPPI（生産者物価指数）総合の前月比（左下図）は+0.7%、ガソリン価格+6.2%の上昇が寄与。前年比（右下図）は+6.0%と前月より▲0.5ポイント伸びが低下した。



TRADINGECONOMICS.COM | U.S. BUREAU OF LABOR STATISTICS



TRADINGECONOMICS.COM | U.S. BUREAU OF LABOR STATISTICS

13. 米製造業PMI指数は50割れが続く

①米サプライマネジメント協会 (ISM)
の1月製造業PMI指数(右図赤線)は47.4
と前月比▲1.0ポイントの低下。項目
別前月比では

新規受注▲2.6ポイント

生産▲0.6

雇用▲0.2

供給者納入+0.5

在庫▲2.1

顧客在庫▲0.8

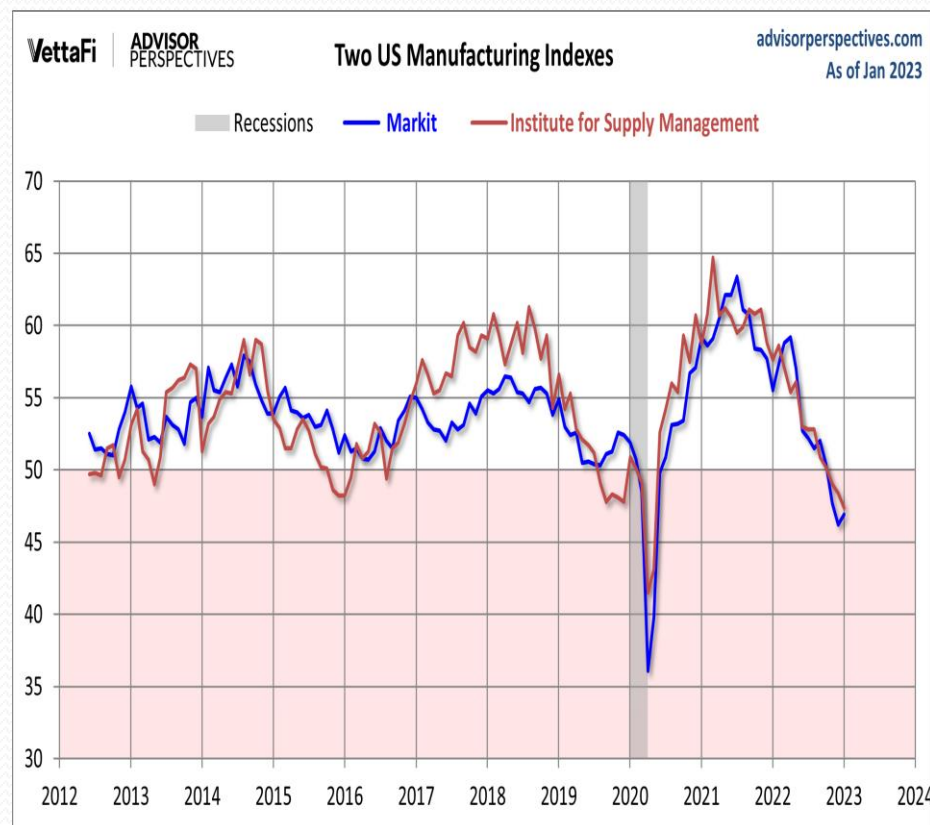
価格+5.1

受注残+2.0

新規輸出受注+3.2

輸入+2.7

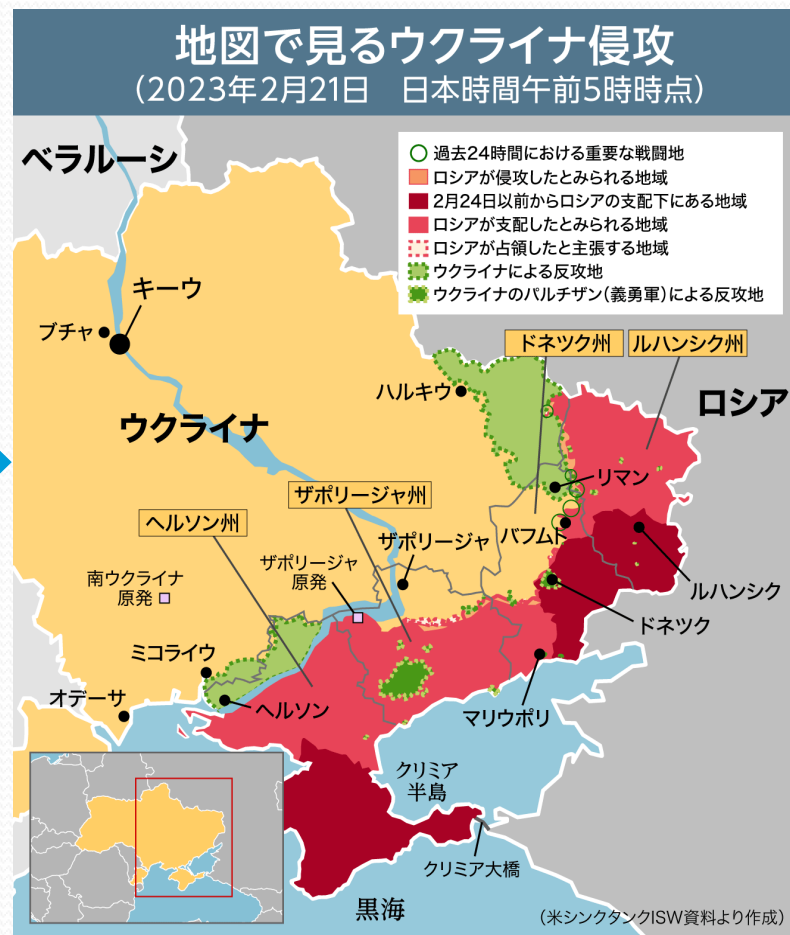
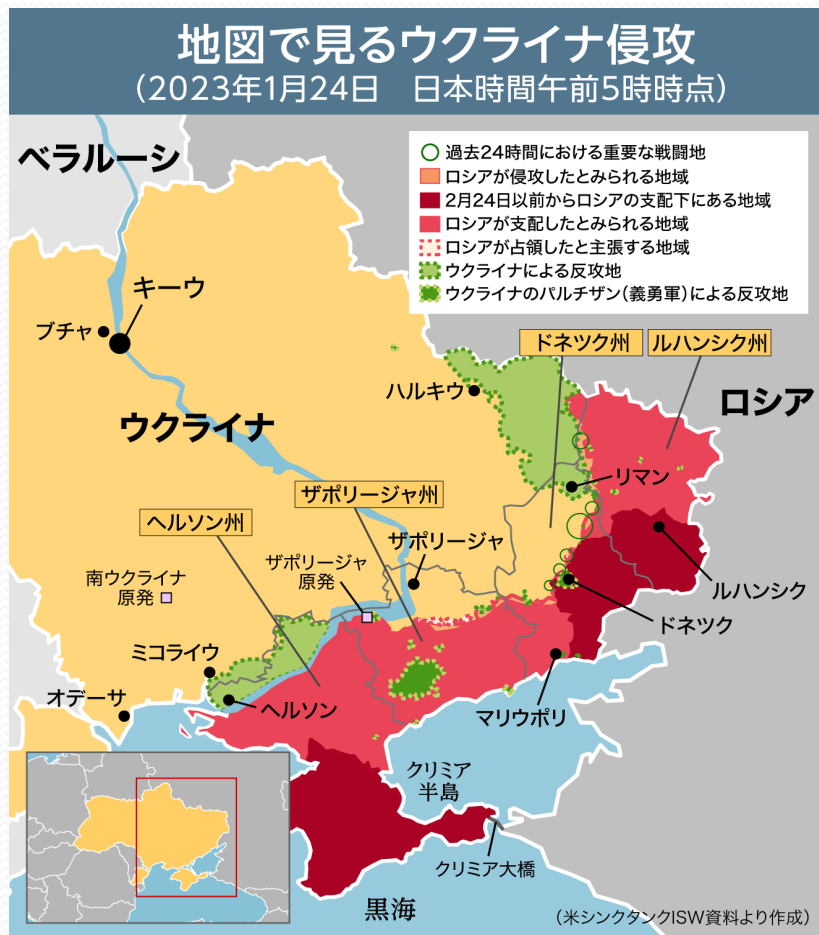
②1月Markit製造業PMI指数(右図青線)
は46.9と前月比+0.7ポイント上昇。





II 欧州經濟

1. ウクライナ戦争は膠着状態続く



2. ECBは0.5%利上げ、次回3月も0.5%利上げ表明

①2月2日のECB理事会は政策金利を0.5%引き上げ、預金ファシリティ金利は2.5%、主要レポ金利3.0%、限界貸出ファシリティ金利は3.25%となった。「次回3月の理事会でも0.5%の利上げを予定している」と声明文は述べている。

②証券保有については資産購入プログラム (APP) に基づいて購入した満期が来た証券の元本再投資を2月まで続け、3月から6月末まで、月150億ユーロずつ減らして行く。それ以降は適宜決めるとしている。

③終了したPandemic Emergency Purchase Programme (PEPP) は満期が来たものは少なくとも2024年末まで元本を再投資。将来のPEPP資産縮小は金融政策を損なわないように行う。

⑥銀行がTLTRO-Ⅲ (金融政策の伝達経路を改善することを目的とした長期資金供給オペ) で借り入れた資金を返済中で、理事会はTLTROの金融政策への貢献を定期的に評価する、としている。

記者会見を行うラガルドECB総裁



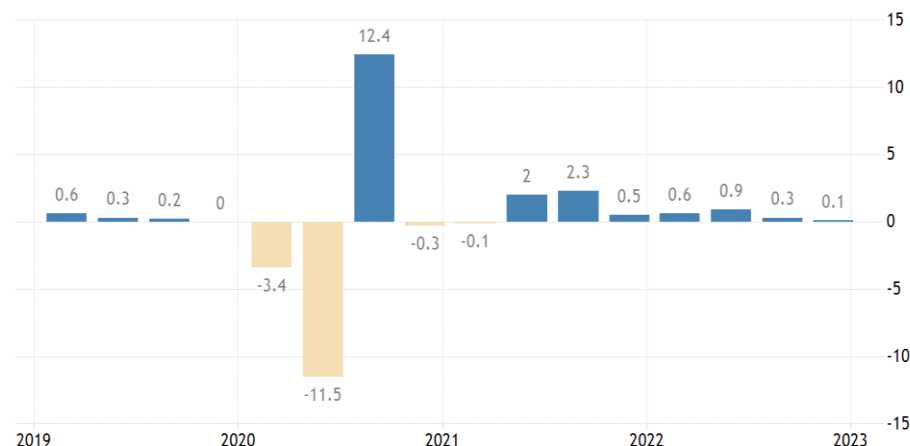
3. 10～12月期のユーロ圏のGDPは減速傾向続く

①10～12月期のユーロ圏GDP(速報)は前期比(右上図)+0.1%、前年比(右下図)は+1.9%。

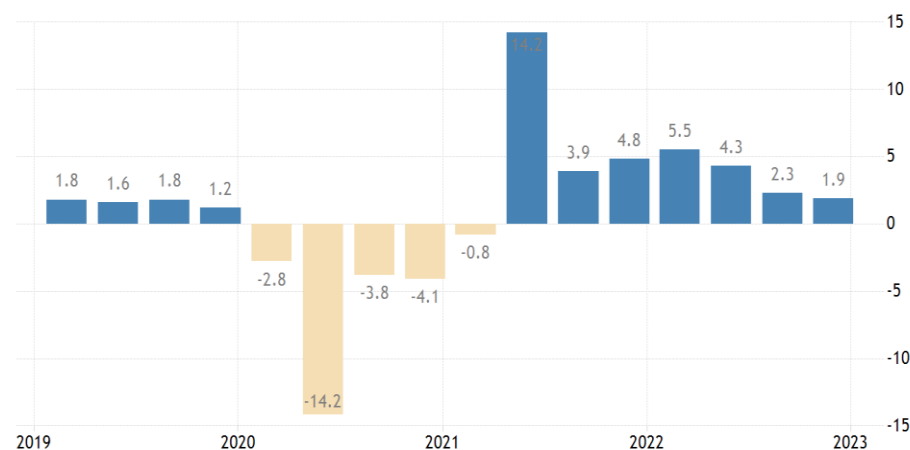
②前期比で独▲0.2%、仏+0.1%、伊▲0.1%、スペイン+0.2%、ポルトガル+0.2%、オーストリア▲0.7%、ベルギー+0.1%。

③前年比で独+1.1%、仏+0.5%、伊+1.7%、スペイン+2.7%、ポルトガル+3.1%、オーストリア+2.7%、ベルギー+1.4%。

④BREXITした英国は前期比0.0%、前年比+0.4%。



TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT



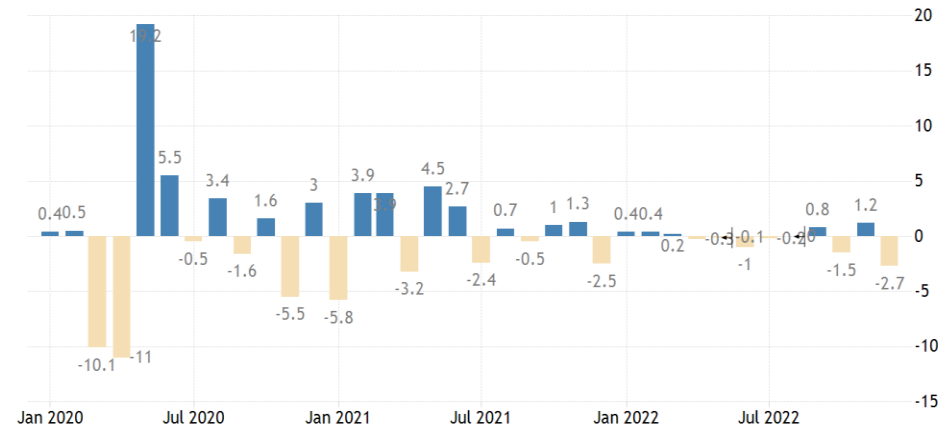
TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT

4. ユーロ圏小売売上高はインフレと利上げが重し

①12月のユーロ圏小売売上高（数量ベース、季調済）は前月比▲2.7%（右上図）、前年比（右下図）は▲2.8%と不振。インフレと金利上昇が消費を抑制。

②商品別前月比で食料・飲料・タバコ▲2.9%、非食料製品▲2.6%（うち通信販売・インターネット▲2.3%）、自動車燃料+2.3%。

③商品別前年比では食料・飲料・タバコ▲6.9%、非食料製品▲0.6%（うち通信販売・インターネット▲5.5%）、自動車燃料+6.0%。



TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT



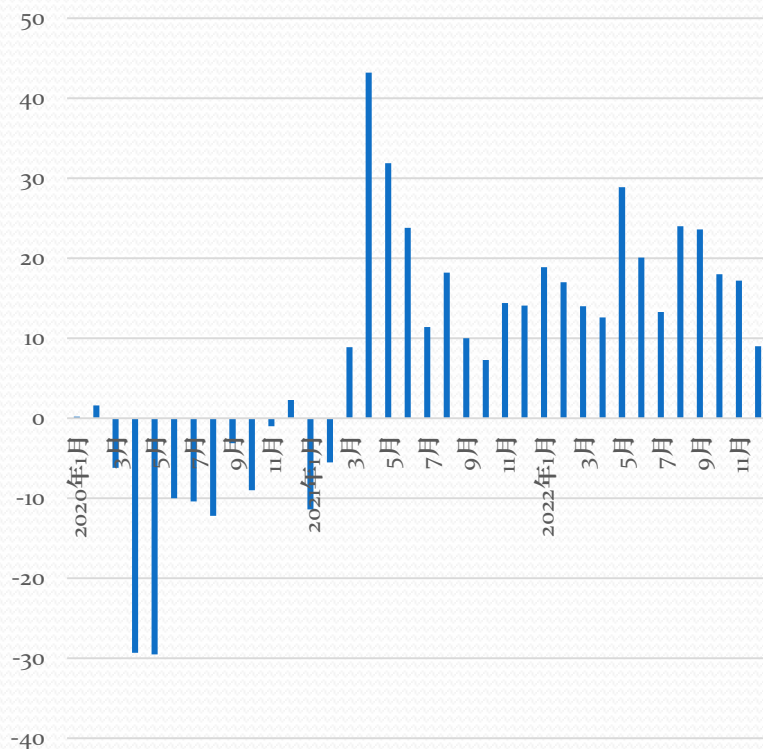
TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT

5. ユーロ圏の輸出入の伸びは減速傾向

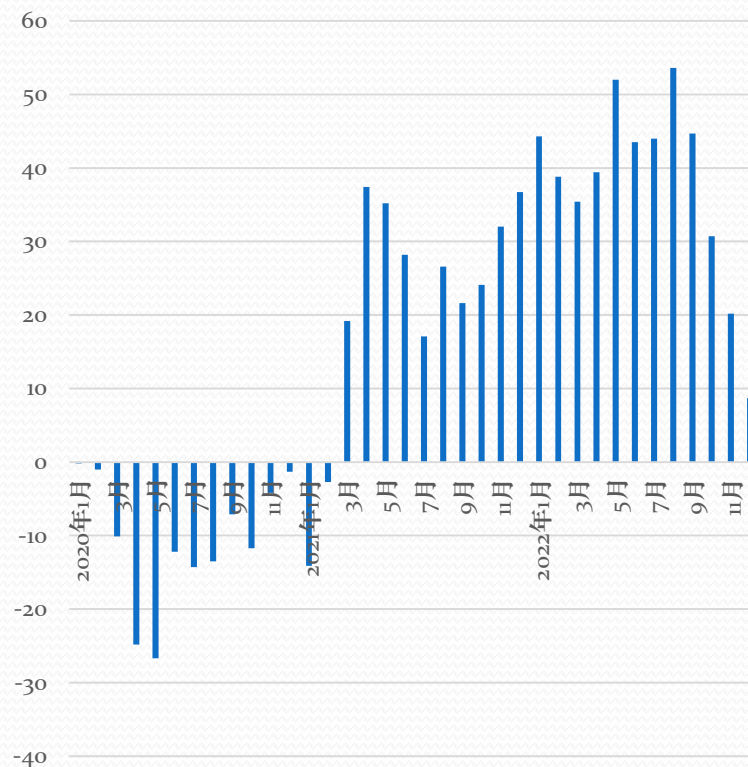
①12月の輸出の伸びは前年比+9.0%

②12月の輸入の伸びは前年比+8.7%

ユーロ圏の輸出の推移(前年比、%)



ユーロ圏の輸入の推移(前年比、%)



6. ユーロ圏の鉱工業生産は前年比で再び低下

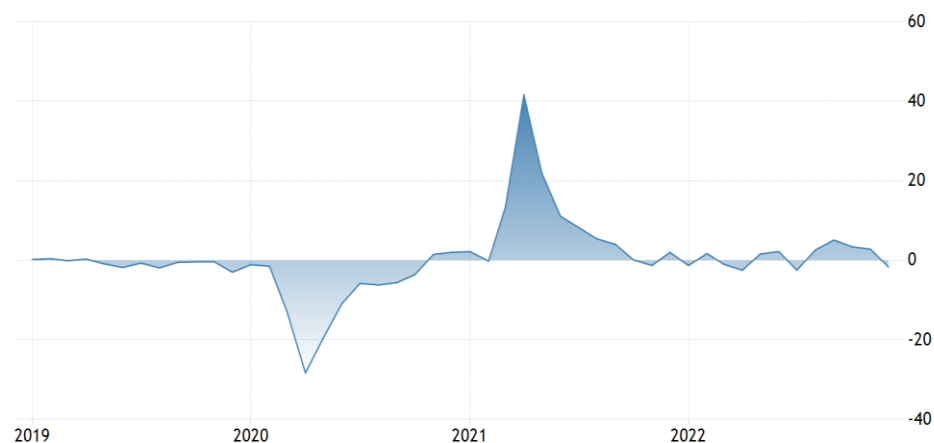
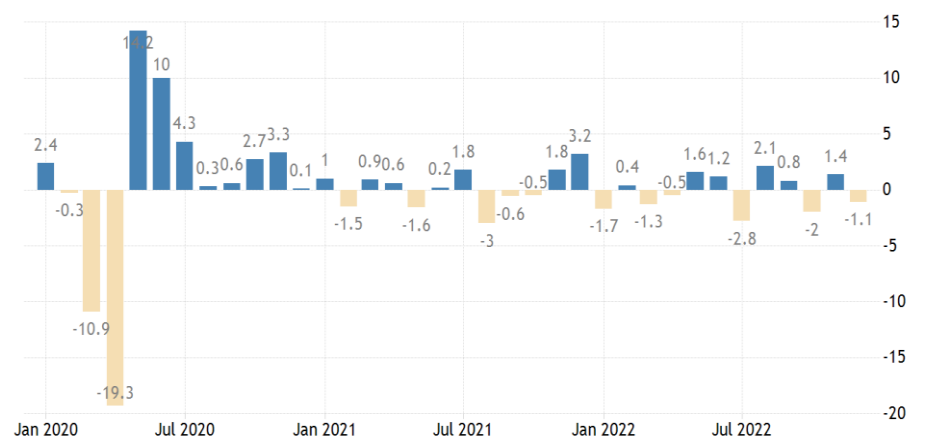
①12月のユーロ圏鉱工業生産は前月比(右上図)▲1.1%、前年比(右下図)は▲1.7%。

②項目別の前月比は中間財▲2.8%、エネルギー+1.3%、資本財▲0.4%、耐久消費財▲1.4%、非耐久消費財▲1.0%。

③前年比では中間財▲6.9%、エネルギー▲9.3%、資本財0.0%、耐久消費財▲1.3%、非耐久消費財+7.9%。

④国別の前月比ではドイツ▲2.9%、仏+1.1%、スペイン+0.9%、ポルトガル+4.1%、オランダ+2.1%、デンマーク+13.5%、オーストリア▲3.0%。

⑤前年比ではドイツ▲0.2%、仏+1.1%、スペイン▲1.8%、ポルトガル+2.8%、オランダ+0.9%、デンマーク+26.1%、オーストリア▲2.8%。



7. ユーロ圏の失業率は緩やかな低下続く

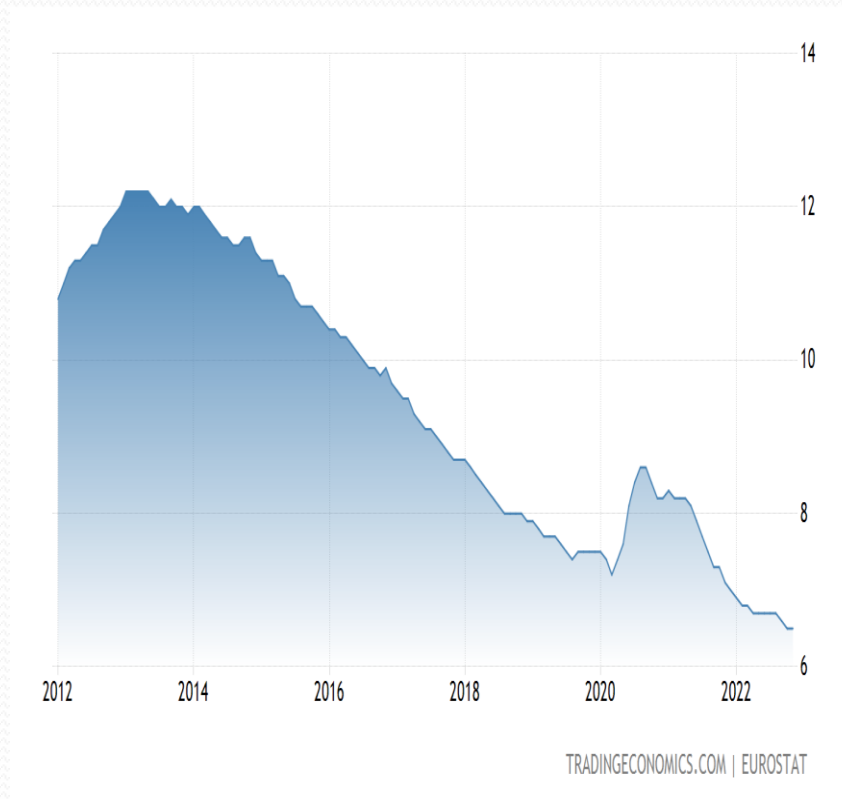
①12月のユーロ圏失業率(右図)は6.6%と前月と変わらず、前年同月より▲0.6ポイント低下。

②最低はチェコの2.3%、最高はスペインの13.1%。

③前年12月との比較では独3.2%→2.9%、仏7.4%→7.1%、伊8.8%→7.8%、オランダ3.8%→3.5%、スペイン13.3%→13.1%、アイルランド5.1%→4.3%に低下。

一方、オーストリア4.8%→5.0%、ポルトガル5.9%→6.7%、デンマーク4.5%→4.8%に上昇。

④英国の失業率は3.7%で3ヶ月連続で変わらず(英国統計局)。

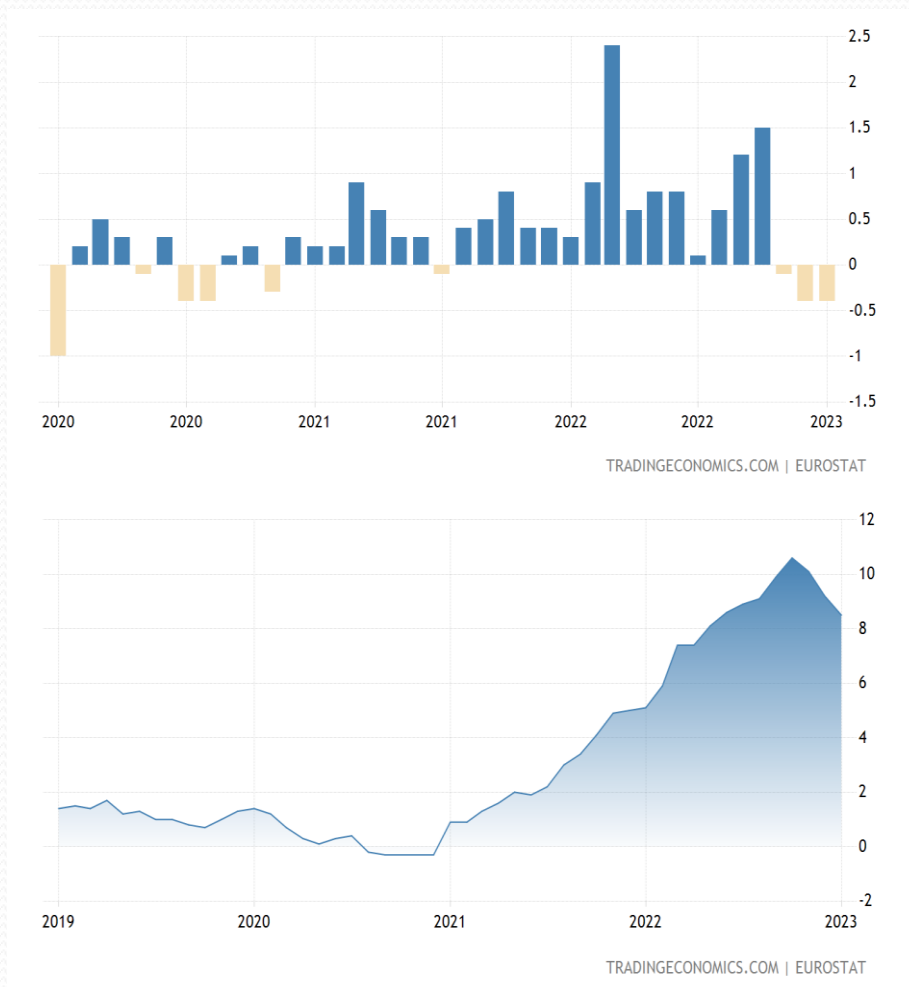


8. ユーロ圏のインフレは3ヶ月連続の前月比低下

①1月のユーロ圏消費者物価(CPI)の前年比(右下図)は前月の伸びから▲0.7ポイント低下し+8.5%、前月比は▲0.4%(右上図)

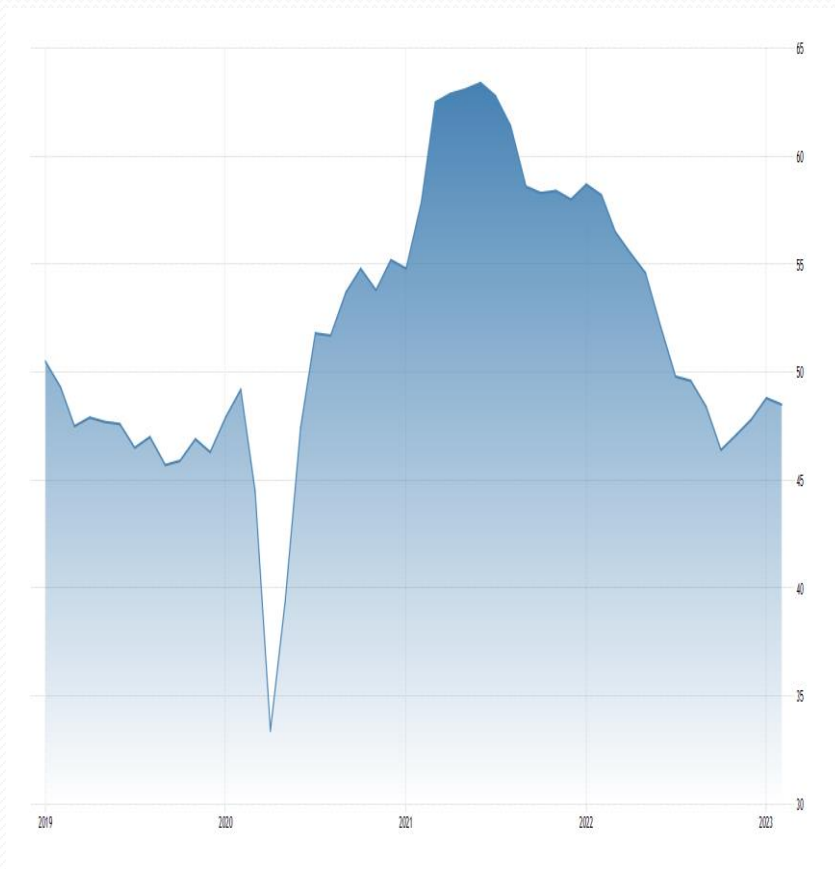
②コアCPI(エネルギー・食料・アルコール・タバコを除く)の前年比は+5.2%と前月と変わらず。前月比▲0.8%。

③項目別の前年比で食料・アルコール・タバコは11月+13.6%→12月+13.8%→1月+14.1%。エネルギーは+34.9%→+25.5%→+17.2%。非エネルギー工業製品は+6.1%→+6.4%→+6.9%。サービスは+4.2%→+4.4%→+4.2%。

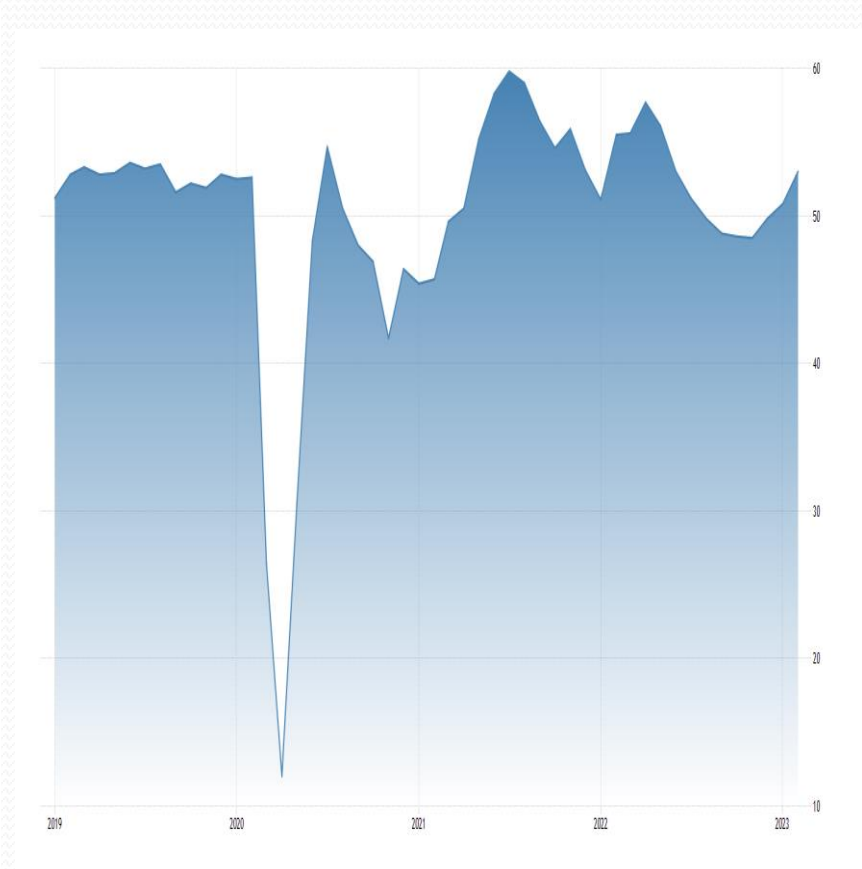


9. ユーロ圏のサービス業PMIは改善の兆し

①製造業PMIは1月48.8→2月48.5



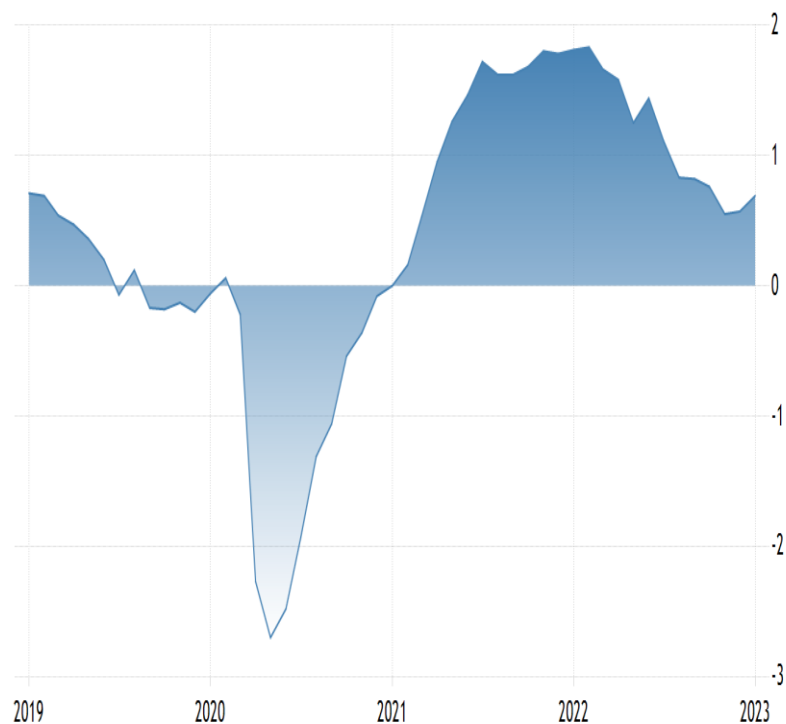
②サービス業PMIは1月50.8→2月53.0



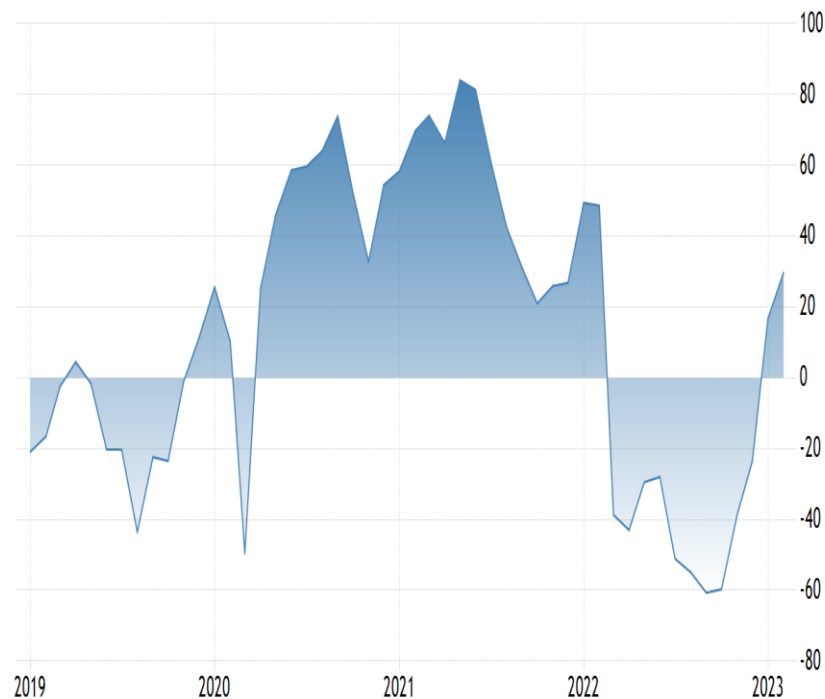
10. ユーロ圏景況感指数は明るい兆し

①1月のユーロ圏業況指数 (EU委員会) は +0.69 と反転の兆し。

②2月のユーロ圏ZEW景況感指数は前月比+23.0ポイント改善して+29.7と2ヶ月連続のプラス



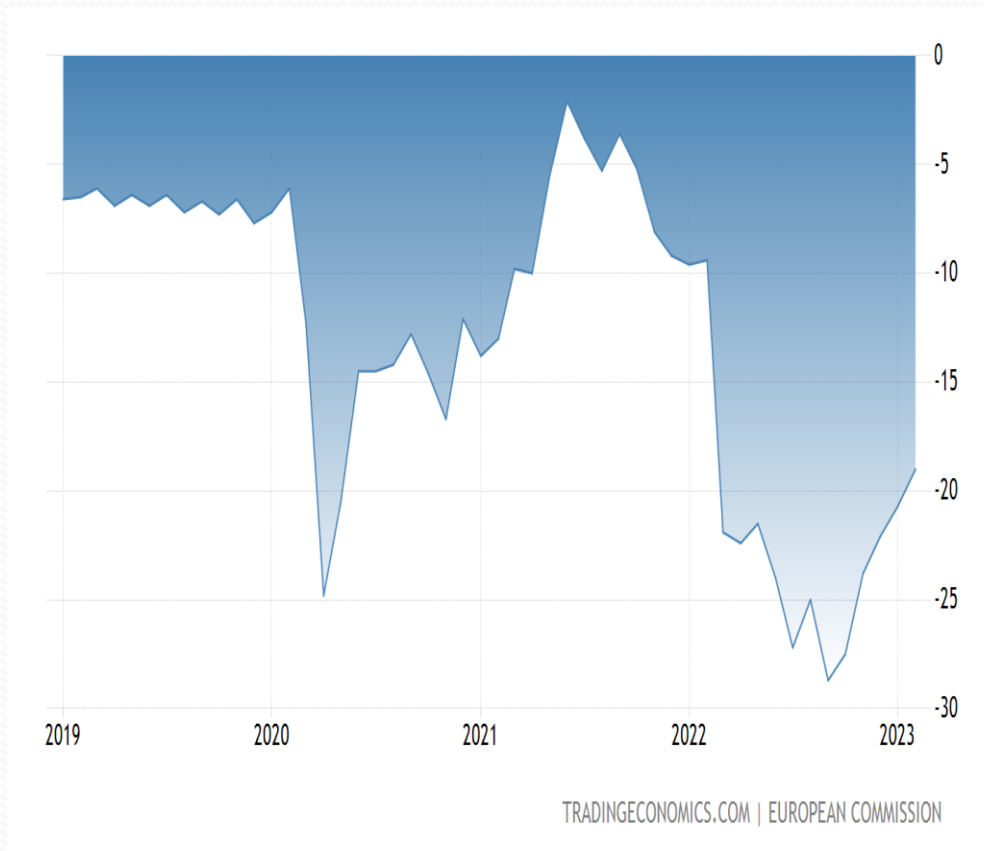
TRADINGECONOMICS.COM | EUROPEAN COMMISSION



TRADINGECONOMICS.COM | CENTRE FOR EUROPEAN ECONOMIC RESEARCH (ZEW)

11. ユーロ圏消費者信頼感指数は底入れから改善

欧州委員会が発表
した2月のユーロ圏
消費者信頼感指数
(右図)は前月より
+1.7ポイント改善
して▲19.0。

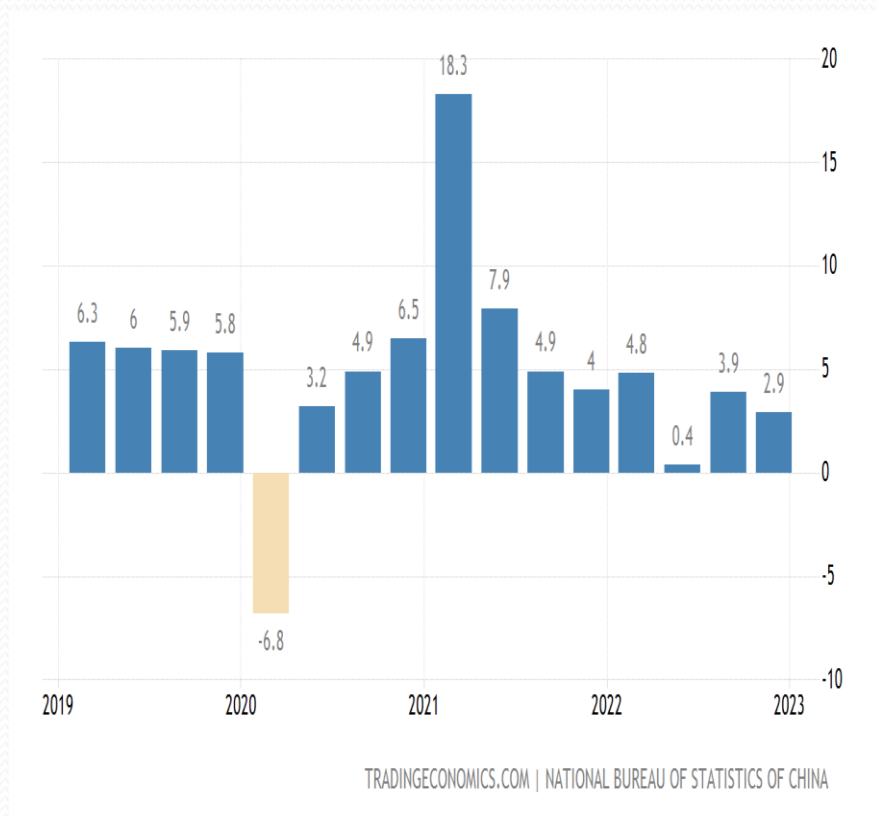


Ⅲ 中国経済

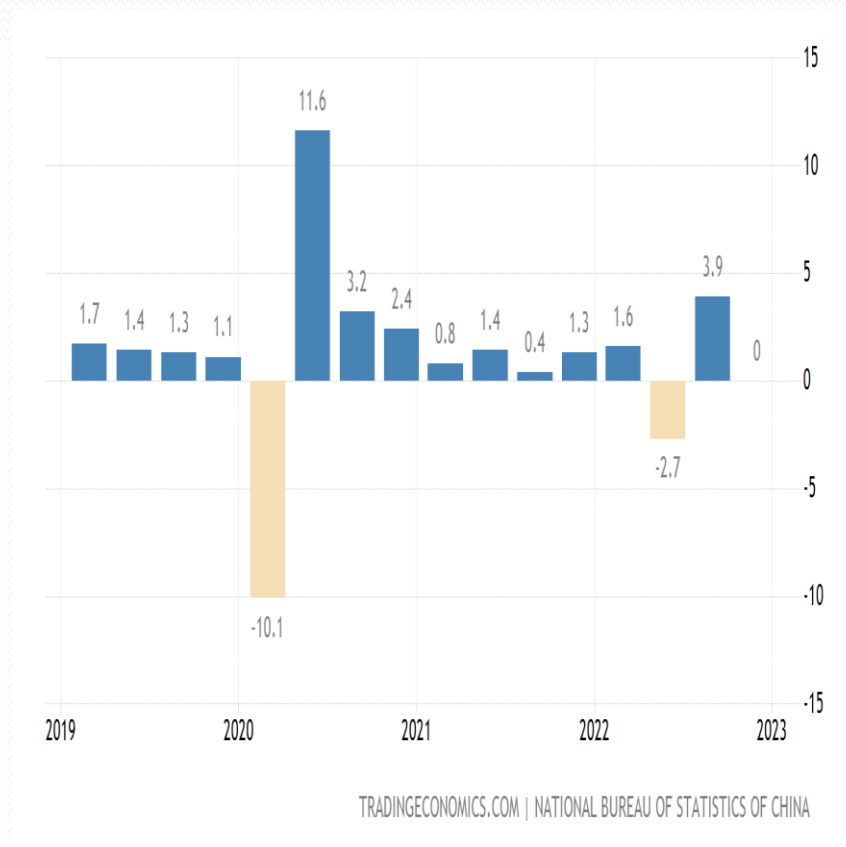
(統計は1～2月合算で3月に公表されるものが多い)

1. 中国の10～12月期GDPは+2.9%、22年平均は+3.0%

①前年比は+2.9%にやや減速



②前期比はゼロ%に低下

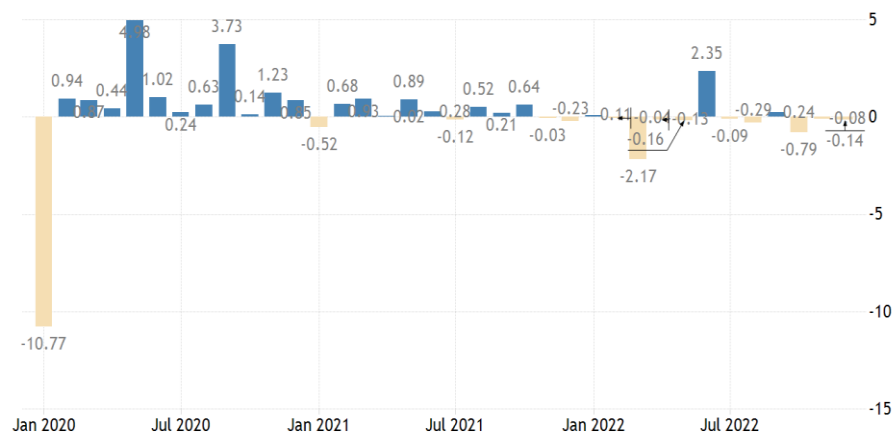


2. 中国の消費はゼロコロナ政策の後遺症残る

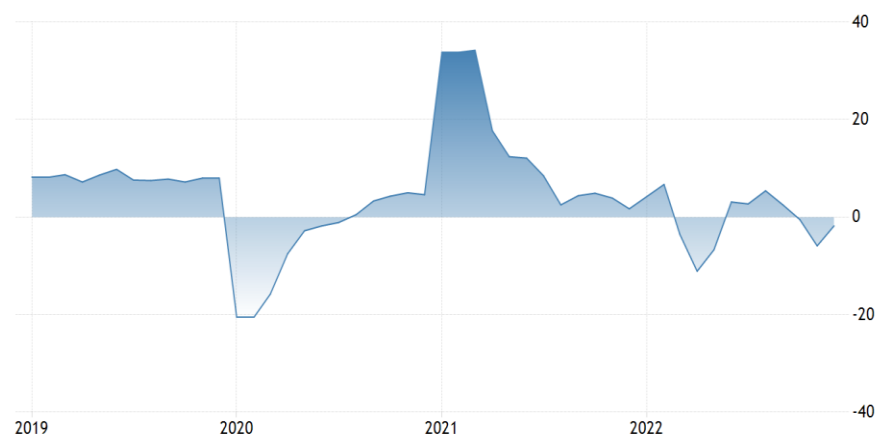
①12月の小売売上高の前年比(右下図)は▲1.8%と3ヶ月連続の減少。ゼロコロナ政策は解除されたが後遺症残る。前月比(右上図)は▲0.14%。

②商品別の前年比は以下の通り

	10月		11月		12月
通信機材	▲8.9%	→	▲17.6%	→	▲4.5%
自動車	+3.9%	→	▲4.2%	→	+4.6%
建設資材	▲8.7%	→	▲10.0%	→	▲8.9%
家具	▲6.6%	→	▲4.0%	→	▲5.8%
家庭電器	▲14.1%	→	▲17.3%	→	▲13.1%
宝飾品	▲2.7%	→	▲7.0%	→	▲18.4%
化粧品	▲3.7%	→	▲4.6%	→	▲19.3%
石油製品	+0.9%	→	▲1.6%	→	▲2.9%
衣類	▲7.5%	→	▲15.6%	→	▲12.5%
事務用品	▲2.1%	→	▲1.7%	→	▲0.3%
医薬品	+8.9%	→	+8.3%	→	+39.8%
日用品	▲2.2%	→	▲9.1%	→	▲9.2%
合計	▲0.5%	→	▲5.9%	→	▲1.8%



TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA



TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA

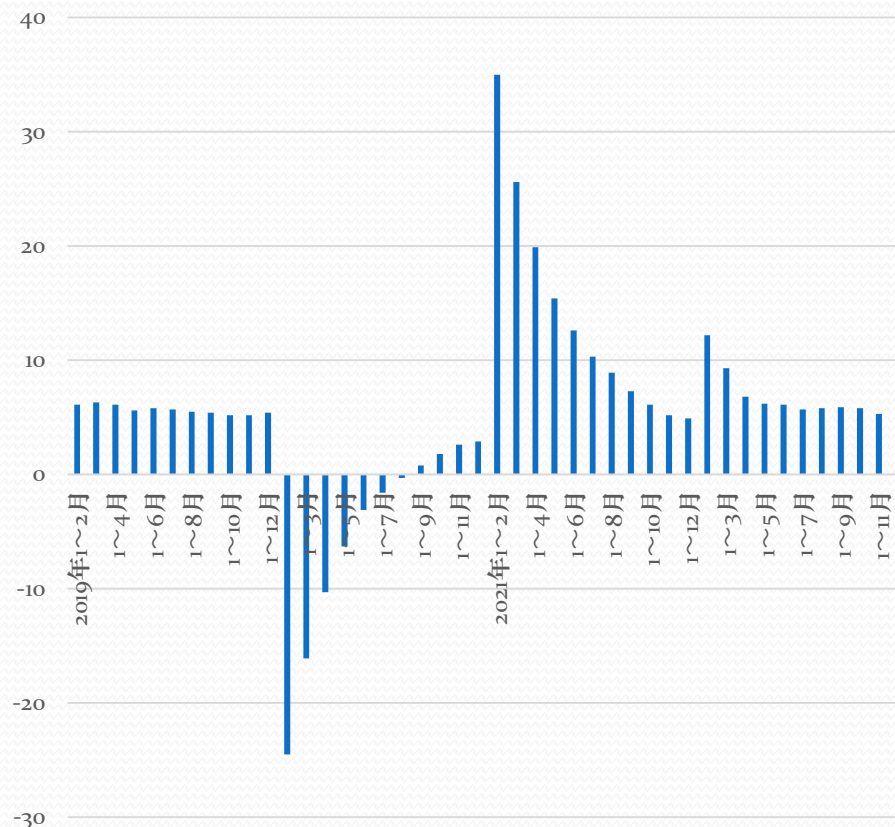
3. 中国の固定資産投資は公共投資主導続く

①1～12月累計の固定資産投資は前年比+5.1%(右図)。

②民間投資は+0.9%、公共投資の伸びは+10.1%。

③鉱業は+4.5%。製造業+9.1%、うち食品製造+13.7%、紡績業+4.7%、化学+18.8%、医薬+5.9%、非鉄金属+15.7%、金属製品+11.8%、自動車製造+12.6%、鉄道・船舶・航空+1.7%、電気機械+42.6%、コンピュータ・通信+18.8%、電力・ガス・水道+19.3%、鉄道運輸は+1.8%、道路運輸は+3.7%、水利環境公共施設+10.3%。

中国の固定資産投資(前年比、%)

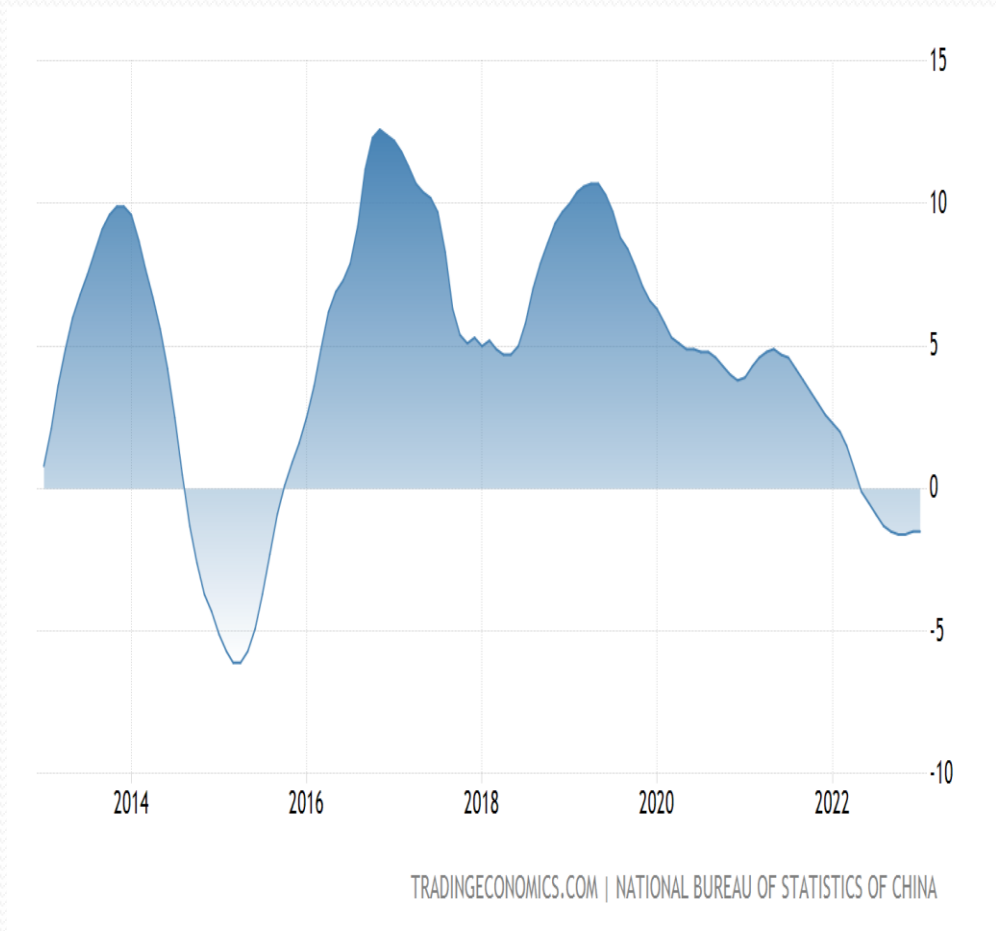


4. 中国の住宅価格は前年比9ヶ月連続マイナス

①1月の70都市新築住宅価格の伸びは▲1.5%と前月の伸びと変わらず（右図）、9ヶ月連続で前年比マイナス。不動産開発業者の巨額債務が足かせになっている。前月比は+0.1%。

②前月比で上昇した都市が36都市、下落したのは33都市、横ばいは1都市。

③都市別の住宅価格前年比は
北京+5.2%、大連▲4.8%
長春▲5.0%、上海+4.2%
南京+0.2%、武漢▲5.7%
広州▲0.3%、深圳▲0.9%
成都+8.6%、西安+2.2%

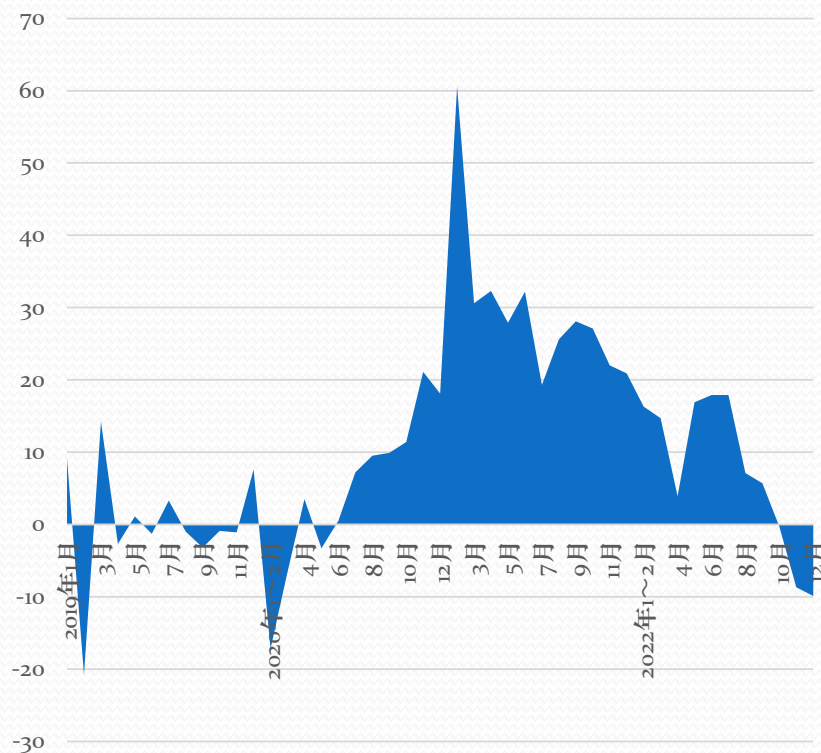


5. 中国の貿易統計は内外の需要低迷で減少

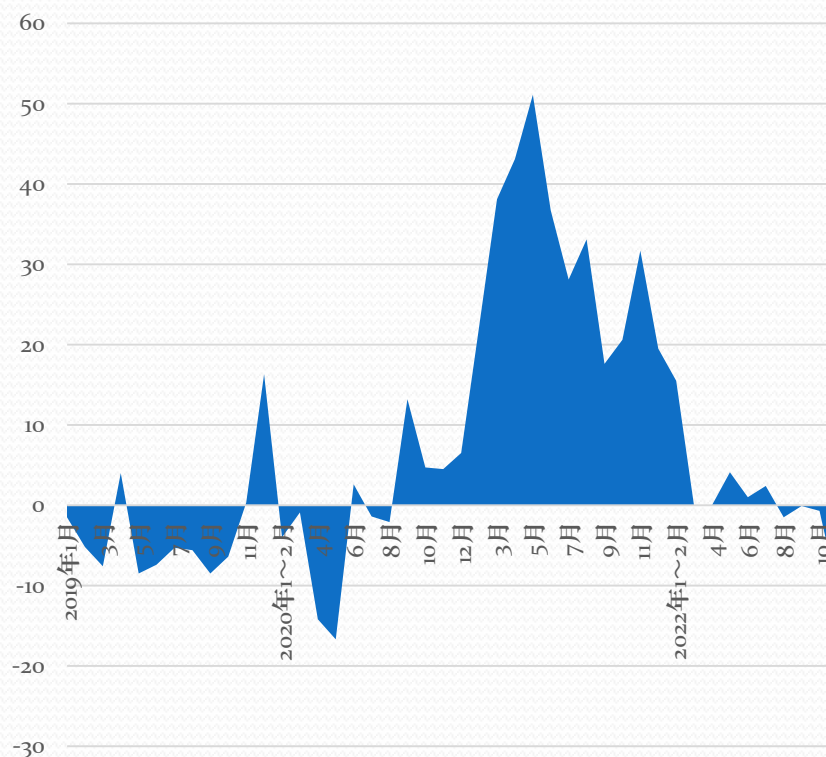
①12月の輸出は海外需要の弱さから前年比▲9.9%の減少。

②12月の輸入の伸びは前年比▲7.5%と内需の弱さを反映してマイナス続く。

中国のドル建て輸出(前年比、%)

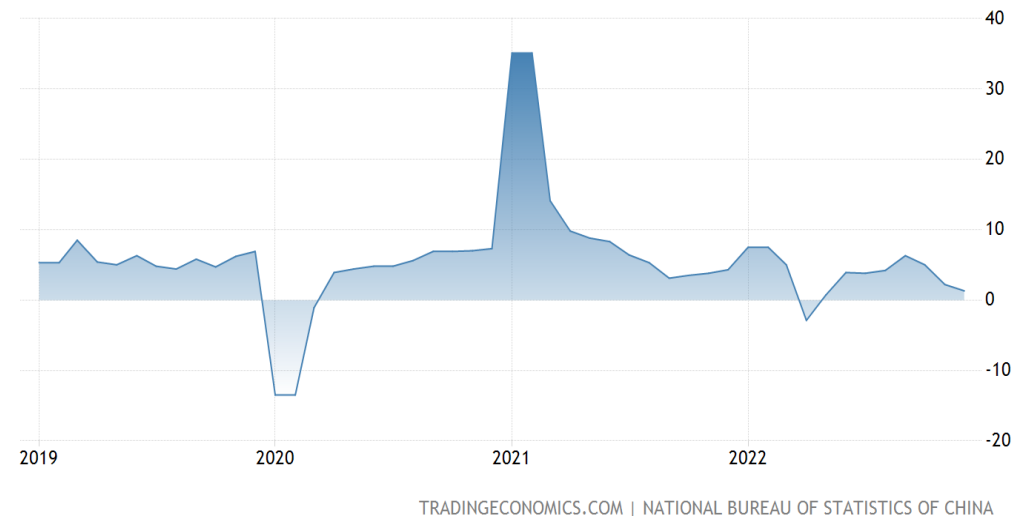
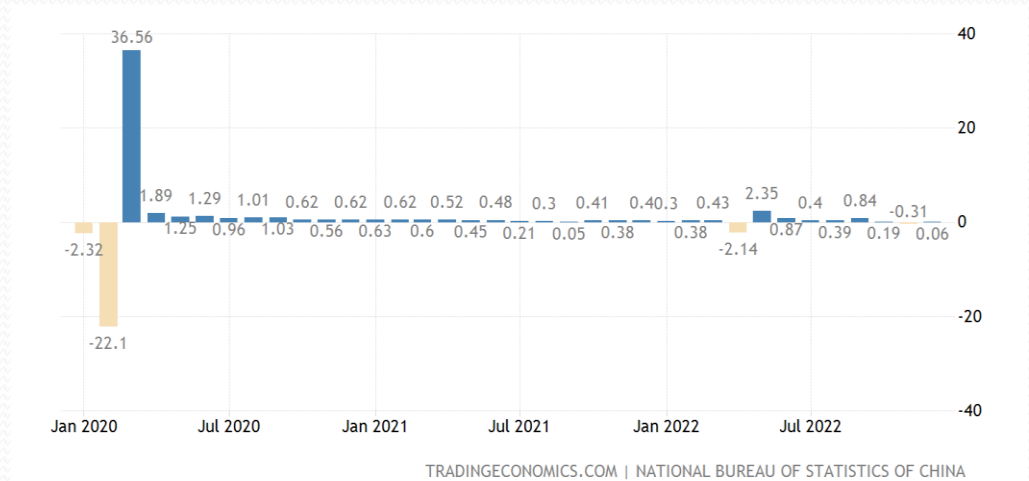


中国のドル建て輸入(前年比、%)



6. 中国の鉱工業生産はコロナの後遺症残る

- ①12月の鉱工業生産の前年比(右下図)は+1.3%の伸び。前月比(右上図)は+0.06%。
- ②製造業の前年比は+0.2%。電気・ガス・水道は+7.0%、鉱業は+4.9%。
- ③食品製造は前年比▲0.1%、紡績▲3.0%、化学+11.0%、医薬製造▲1.4%、非金属鉱物製品▲1.8%、鉄鋼+2.8%、非鉄金属+6.3%、金属製品▲1.2%、自動車▲5.9%、鉄道・船舶・航空機+2.0%、電気機械+10.8%、コンピュータ・通信+1.1%。



7. 中国の失業率は政府目標の5.5%持続

1月の全国都市失業率（農民工は統計に含まれず）は5.5%と前月と変わらず

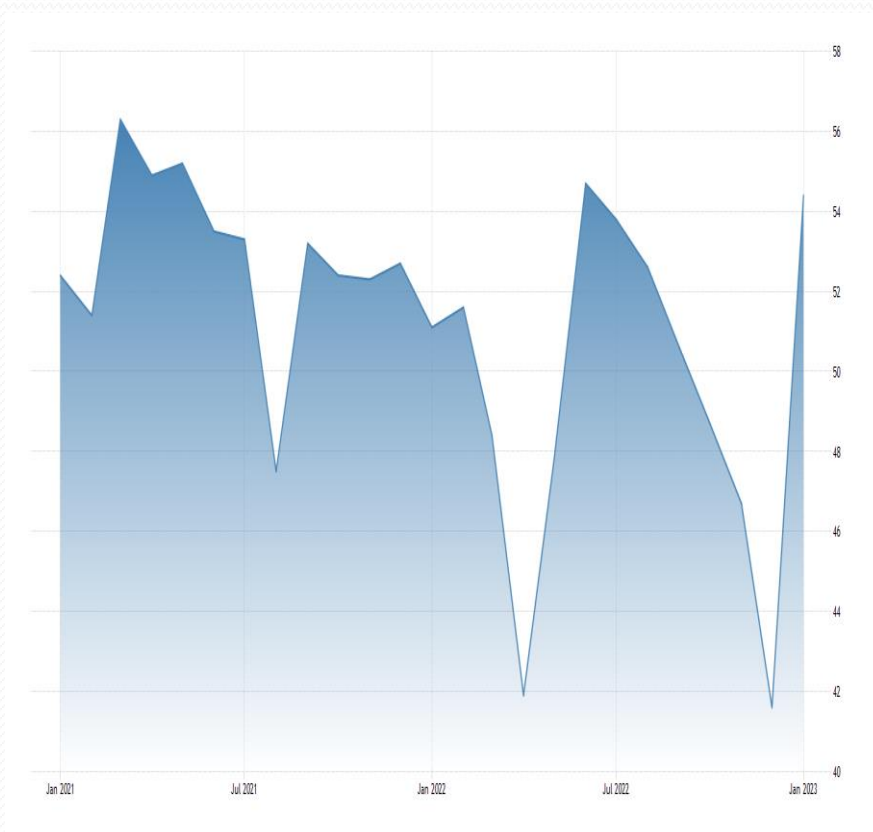
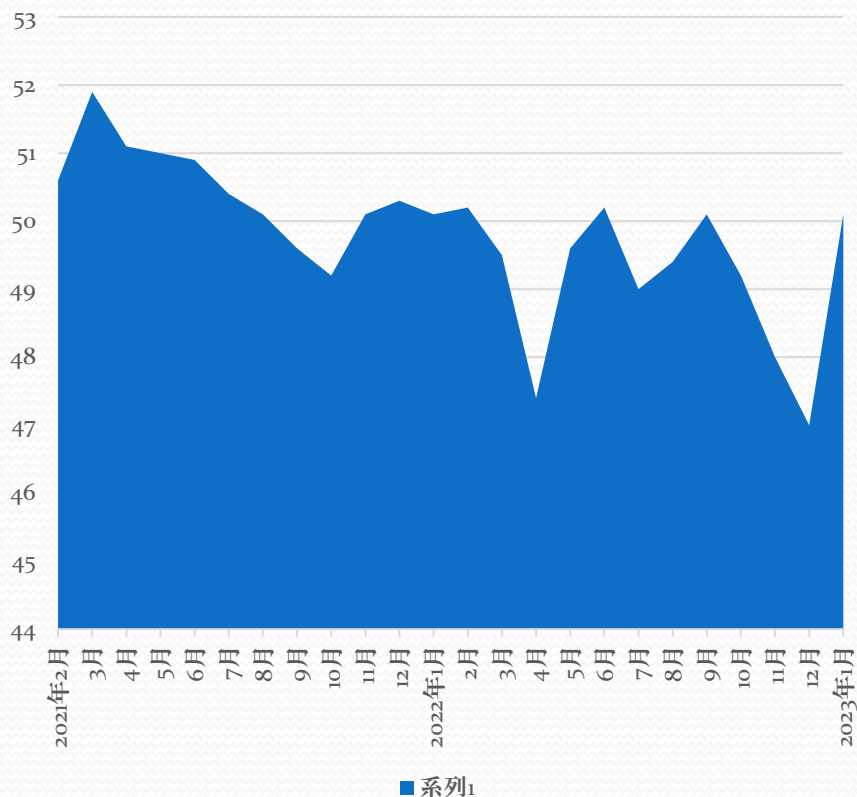


8. 中国PMI指数はウィズコロナへの転換で急上昇

①1月製造業PMIは50.1と前月より+3.1ポイント上昇。

②1月非製造業PMIは54.4と前月より+12.8ポイントの急上昇。

中国製造業PMI指数



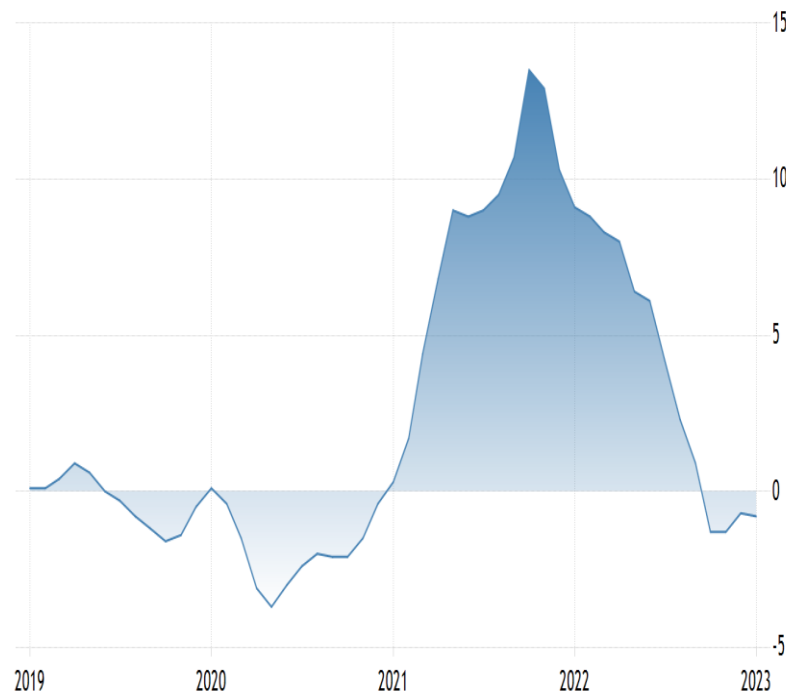
9. 中国の生産者物価はマイナスの伸び続く

①1月の消費者物価の前年比(左図)は+2.1%と前月より+0.3ポイント上昇。食料品価格の上昇が寄与。前月比は+0.8%の上昇。

②1月の生産者物価の前年比(右図)は▲0.8%と前月より▲0.1ポイント伸びが低下。前月比は▲0.4%。



TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA



TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA

IV 日本經濟

1. 政府は日銀総裁に植田和男氏を指名

2月10日、政府は黒田日銀総裁の後任として著名な経済学者で元審議委員の植田和男氏(中央写真)を指名した。副総裁には企画畑の内田真一理事(左写真)と氷見野良三元金融庁(右写真)を指名した。

内田真一副総裁候補



植田和男総裁候補



氷見野良三副総裁候補



2. 10～12月期のGDPは投資需要が弱く低い伸び

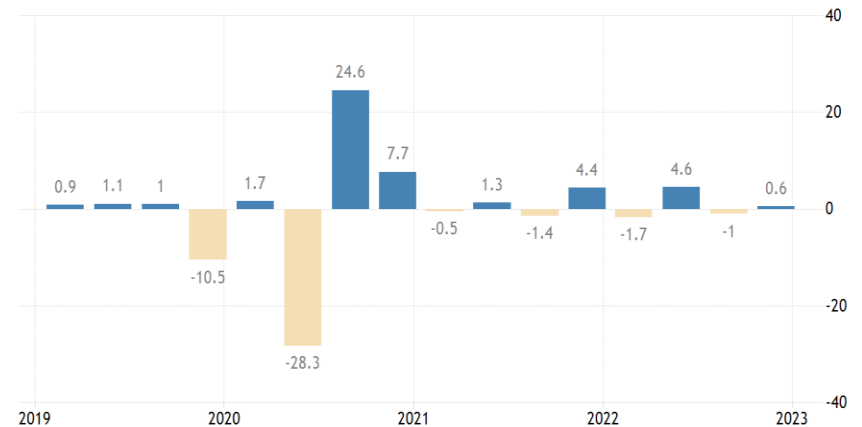
①10～12月期の実質GDP(1次速報値)は前期比+0.2%、前期比年率+0.6%(右上図)とプラス成長。力強さに欠ける内需を外需がカバーした。内需の寄与度は▲0.2%、外需+0.3%。実質GDPの前年同期比(右下図)は+0.6%と前期より▲0.9ポイント伸びが低下。

②名目GDPは前期比+1.3%、前期比年率+5.2%、前年比は+1.7%。GDPデフレーターは前期比+1.1%、前年比も+1.1%。

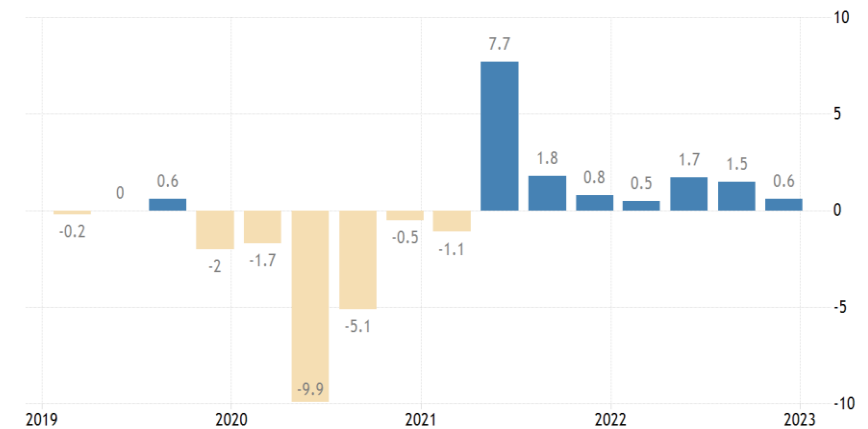
③需要項目別で民間最終消費支出は前期比+0.5%(年率+2.0%)、寄与度は+0.3%。民間企業設備は前期比▲0.5%(年率▲2.1%)、寄与度は▲0.1%。民間住宅は前期比▲0.1%(年率▲0.5%)、寄与度▲0.0%。民間在庫変動の寄与度▲0.5%。

④政府最終消費は前期比0.3%(年率1.3%)、公的固定資本形成は前期比▲0.5%(年率▲2.1%)で、政府支出合計の寄与度は+0.1%。

⑤輸出は前期比+1.4%(年率+5.7%)、寄与度は+0.3%、輸入は前期比▲0.4%(年率▲1.6%)、寄与度は+0.1%。



TRADINGECONOMICS.COM | CABINET OFFICE, JAPAN



TRADINGECONOMICS.COM | CABINET OFFICE, JAPAN

3. 景気動向指数(先行)は緩やかな下降傾向続く

①12月の先行指数(右図)は97.2で、前月比▲0.5ポイントで2ヶ月連続の下降。

②一致指数は98.9で前月比▲0.4ポイントと4ヶ月連続の下降。

③遅行指数は98.9で前月比▲0.9ポイントと5ヶ月ぶりの下降。

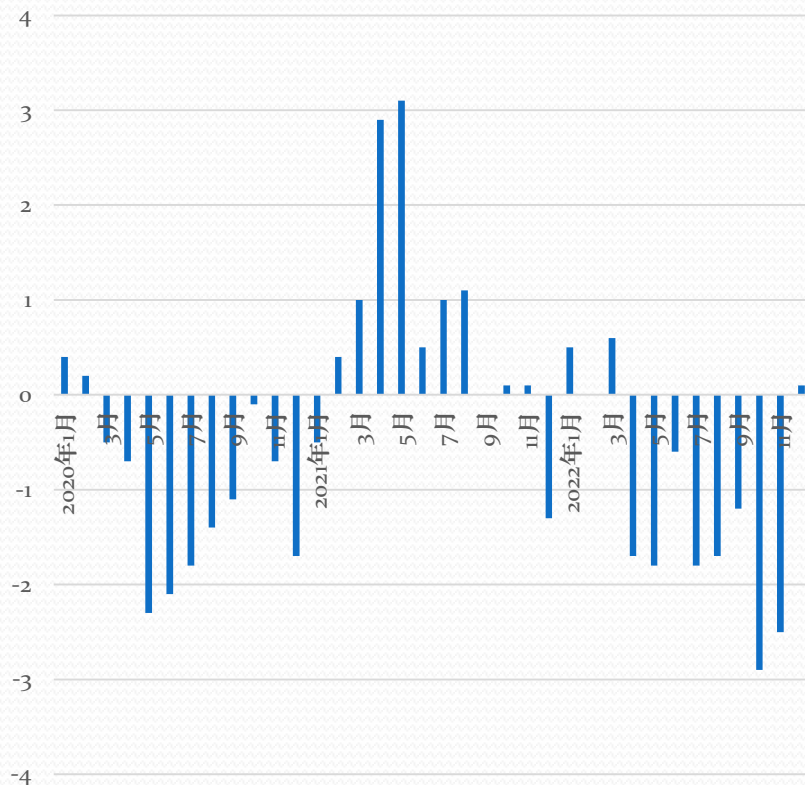
④内閣府の基調判断(一致指数)は「改善を示している」から「足踏みを示している」に下方修正。



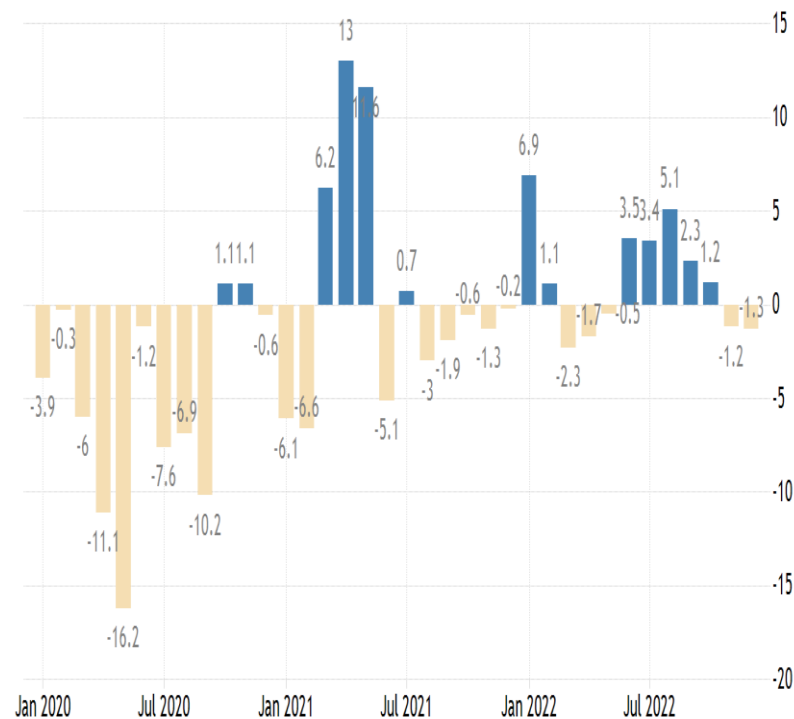
4. インフレ加速で実質消費は2ヶ月連続の減少

(1) 12月の現金給与総額の前年比+4.8%、所定内給与は+1.8%、所定外給与+3.0%、特別給与+7.6%。実質賃金の伸び(下図)+0.1%。

日本の実質賃金の伸び(前年比、%)



(2) 12月の家計消費は物価上昇が響き、前年比で名目+3.4%、実質は▲1.3%(下図)。費目別実質伸び率は住居▲13.8%、食料▲3.6%、家具・家事用品+5.6%、保険医療+4.3%、教育+4.1%。



5. 機械受注(船舶・電力除く民需)は足踏みが続く

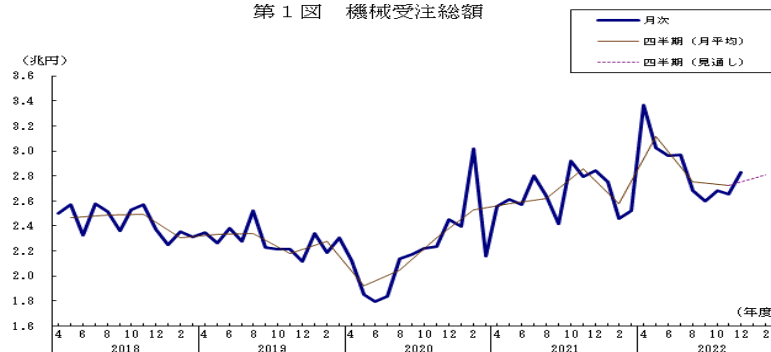
①民間設備投資の先行指標である12月の機械受注「船舶・電力を除く民需」(右下図)は前月比は+1.6%、前年比は▲6.6%の減少。

②製造業受注は前月比+2.1%、前年比は▲13.5%。前月比で17業種中、食品製造業、鉄鋼業など4業種が増加。非鉄金属、造船業など13業種が減少。

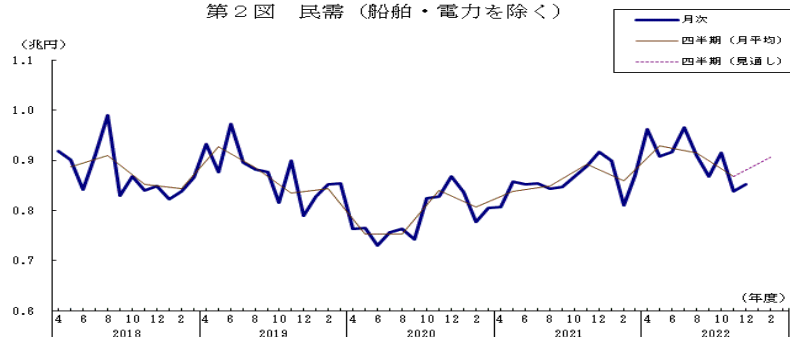
③非製造業受注(船舶・電力を除く)は前月比▲2.5%、前年比▲0.1%。前月比で12業種中、増加したのは鉱業・採石業・砂利採取業、農林漁業など7業種で、運輸業・郵便業、電力業、など5業種が減少。

④内閣府の基調判断は「足踏みがみられる」に据え置き。

第1図 機械受注総額



第2図 民需(船舶・電力を除く)



(備考)

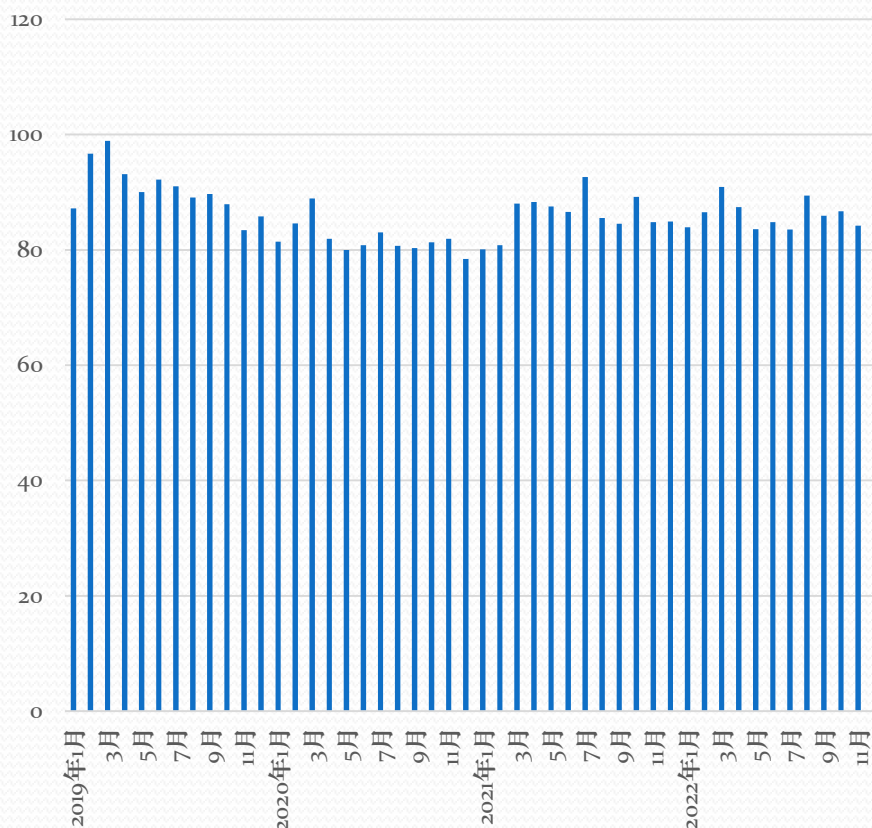
1. 四半期(月平均)は季節調整済みの月平均値を期央月の位置に表示(例えば7~9月の月平均値は8月の位置に表示)。
2. 「2023年1~3月(見通し)」の計数は、「見通し調査(2022年12月末時点)」の季節調整値を3で割った数値。

6. 住宅着工戸数は一進一退の動き続く

①12月の住宅着工戸数は67,249戸で前年比は▲1.7%と3ヶ月連続の減少。季調済年率で84.6万戸(右図)、前月比は+0.5%の増加。

②持家は19,768戸、前年比は▲13.0%と13ヶ月連続の減少。貸家は26,845戸、前年比は+6.4%と22ヶ月連続の増加。分譲住宅は20,200戸、前年比は+1.4%で2ヶ月ぶりの増加。分譲マンションは8,117戸、前年比は+14.5%で2ヶ月ぶりの増加。分譲一戸建て住宅は11,977戸、前年比は▲5.9%で2ヶ月連続の減少。

日本の新設住宅着工戸数(季調済、万戸)

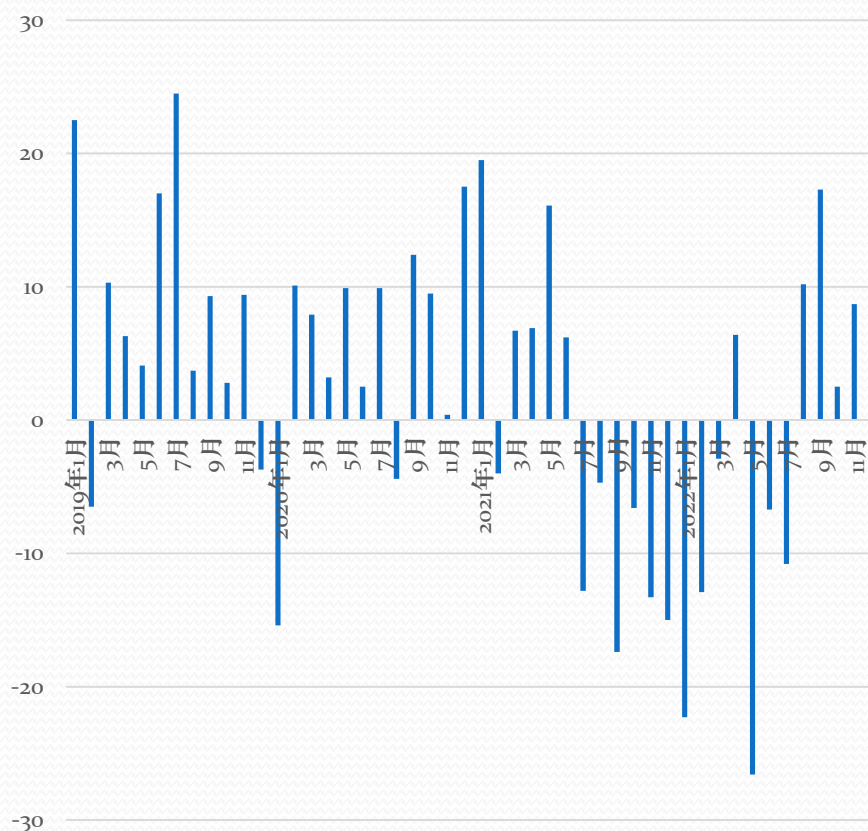


7. 公共工事受注は5ヶ月連続プラスの伸び

①12月の公共工事受注は前年比+16.4%と5ヶ月連続の増加。(注:推計方法の変更により、データは21年3月までと21年4月以降とは連続性がない)

②工事分類別では土木工事は+18.6%、建築工事・建築設備工事+14.9%、機械装置等工事+8.5%。

公共機関からの受注工事(前年比、%)



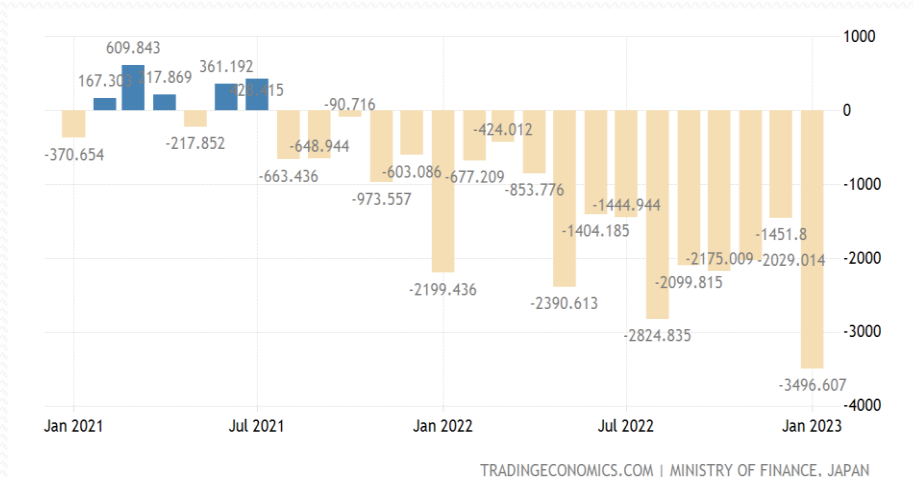
8. 輸出数量大幅減少で貿易赤字が拡大

①1月の貿易収支は前年比▲1兆2,972億円悪化して▲3兆4,966億円(右上図)の赤字に拡大。輸出は前年比+3.5%、金額は6兆5,512億円。数量(右下図)前年比は▲11.5%、価格前年比+16.9%。輸入は前年比+17.8%、金額は10兆477億円。数量の前年比▲2.4%、価格の前年比+20.7%

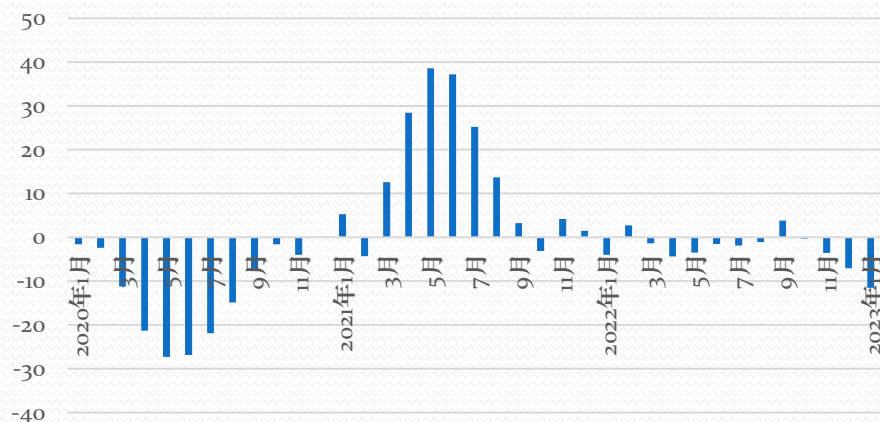
②地域別輸出でアジア向けは▲4.0%(うち中国▲17.1%、香港▲16.9%、台湾▲4.9%、韓国+1.2%、シンガポール+17.6%、タイ+4.9%、インドネシア+18.7%、インド+53.8%)、米国+10.2%、西欧+15.4%、中東+43.4%、ロシア▲36.3%。

④商品別輸出は自動車+14.9%、二輪自動車+36.0%、建設用・鉱山用機械+22.5%。自動車部品▲13.7%、半導体等製造装置▲11.9%、有機化合物▲13.9%、プラスチック▲11.6%。

⑤商品別輸入は鉱物性燃料+48.4%(うち原油及び粗油+35.3%、LNG+57.0%、石炭+93.3%)、鉄鉱石▲24.4%、非鉄金属▲17.2%、電話機+37.4%、原動機+54.3%。



日本の輸出数量の伸び(前年比、%)



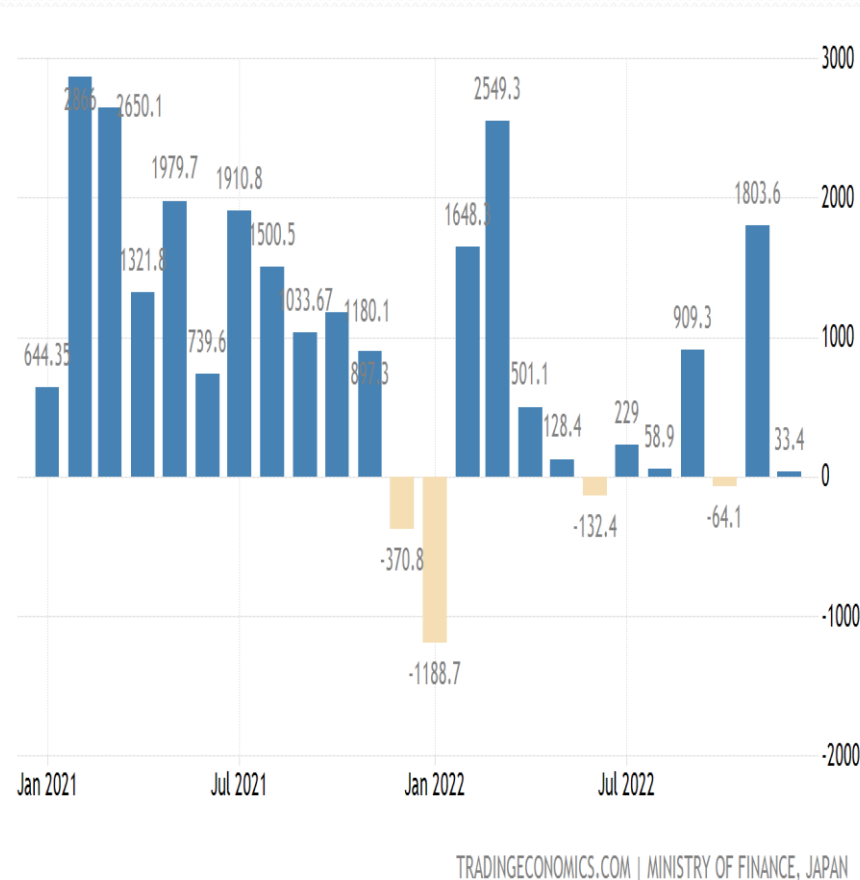
9. 貿易赤字拡大で経常黒字は縮小

①12月の経常収支(右図)は前年比▲3,344億円黒字幅が縮小して、+334億円の黒字。2021暦年の経常収支は前年比▲10兆1,478億円黒字幅が縮小して+11兆4,432億円の黒字。

②12月の貿易収支は前年比▲8,961億円赤字幅が拡大して▲1兆2,256億円の赤字。輸出は前年比+11.8%の8兆7,159億円、輸入は前年比+22.4%の9兆9,415億円。

③サービス収支は▲447億円赤字幅が拡大して▲3,547億円の赤字。

④第一次所得収支は直接投資収益の黒字幅拡大により、+6,597億円黒字幅が拡大して+1兆7,952億円の黒字。第二次所得収支は▲533億円赤字幅が拡大して▲1,815億円の赤字。



10. 日本の雇用は安定した動きが続く

①12月の就業者数は原系列で6,716万人、前年比+10万人。季調済(右上図)は6,719万人で前月比+6万人の増加。原系列で雇用者数は6,055万人で前年比+26万人の増加。正規は3,571万人で前年比▲4万人、非正規は2,144万人で前年比+35万人。自営業主・家族従業者は621万人で前年比▲21万人。

②産業別就業者の前年比では宿泊業・飲食サービス業+11万人、サービス業(他に分類されないもの)+11万人、学術研究・専門技術サービス業+8万人、建設業+8万人などが増加。卸売業・小売業▲8万人、教育・学習支援業▲8万人、製造業▲14万人、不動産業・物品賃貸業▲15万人などが減少

③完全失業者数158万人で前年比▲15万人。完全失業率は2.5%で前月と変わらず(右下図)。

④有効求人倍率は1.35倍で前月と変わらず



11. 鉱工業生産は弱含み基調が続く

①12月の鉱工業生産指数(速報)は95.48で、前月比(右上図)は+0.3%と2ヶ月連続の上昇、前年比は▲2.4%と2ヶ月連続の低下(右下図)。

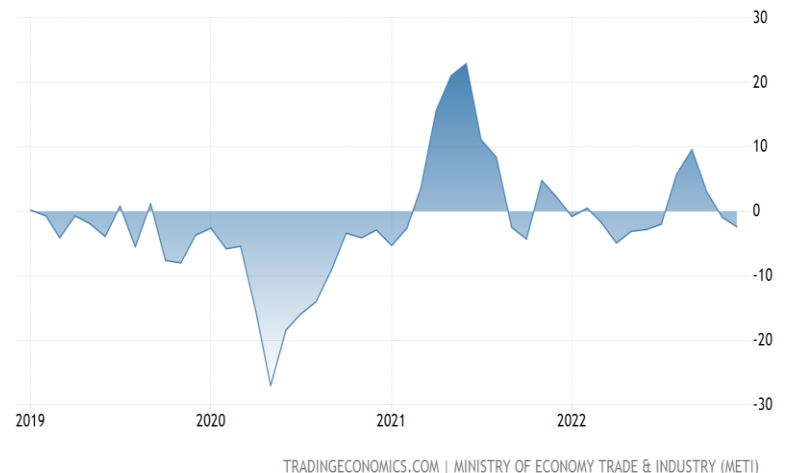
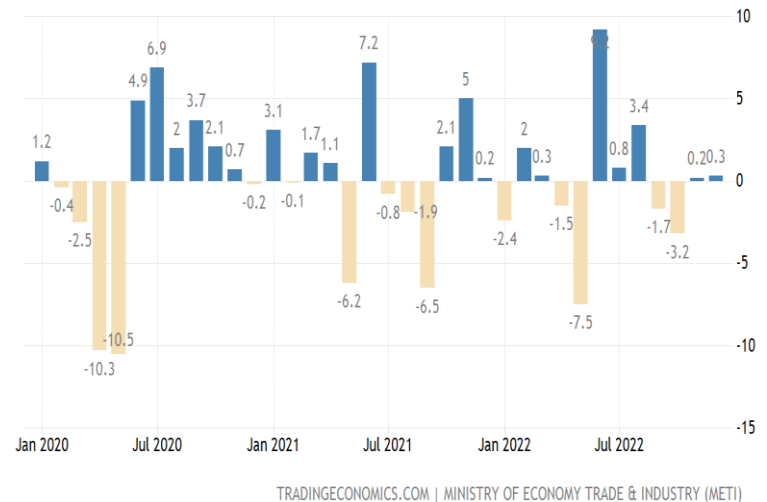
②業種別前月比では化学工業(除く無機・有機化学工業)+3.1%、食料品・たばこ工業+1.7%、生産用機械工業+0.8%などが上昇。汎用・業務用機械工業▲5.9%、鉄鋼・非鉄金属工業▲3.1%、電気・情報通信機械工業▲1.2%などが低下。

③業種別前年比で化学工業(除く無機・有機化学工業)+15.1%、輸送機械工業(除く自動車工業)+25.1%、電気・情報通信機械工業+5.4%などが上昇。電子部品・デバイス工業▲13.1%、窯業・土石製品工業▲9.9%、自動車工業▲5.6%などが低下。

④1月の製造工業生産予測指数は前月比横ばい、2月は+4.1%の上昇を予想。

⑤設備投資の先行指標である資本財(輸送機械を除く)出荷は前月比+1.9%、前年比+3.6%。

⑥基調判断は「生産は弱含み」に据え置き。



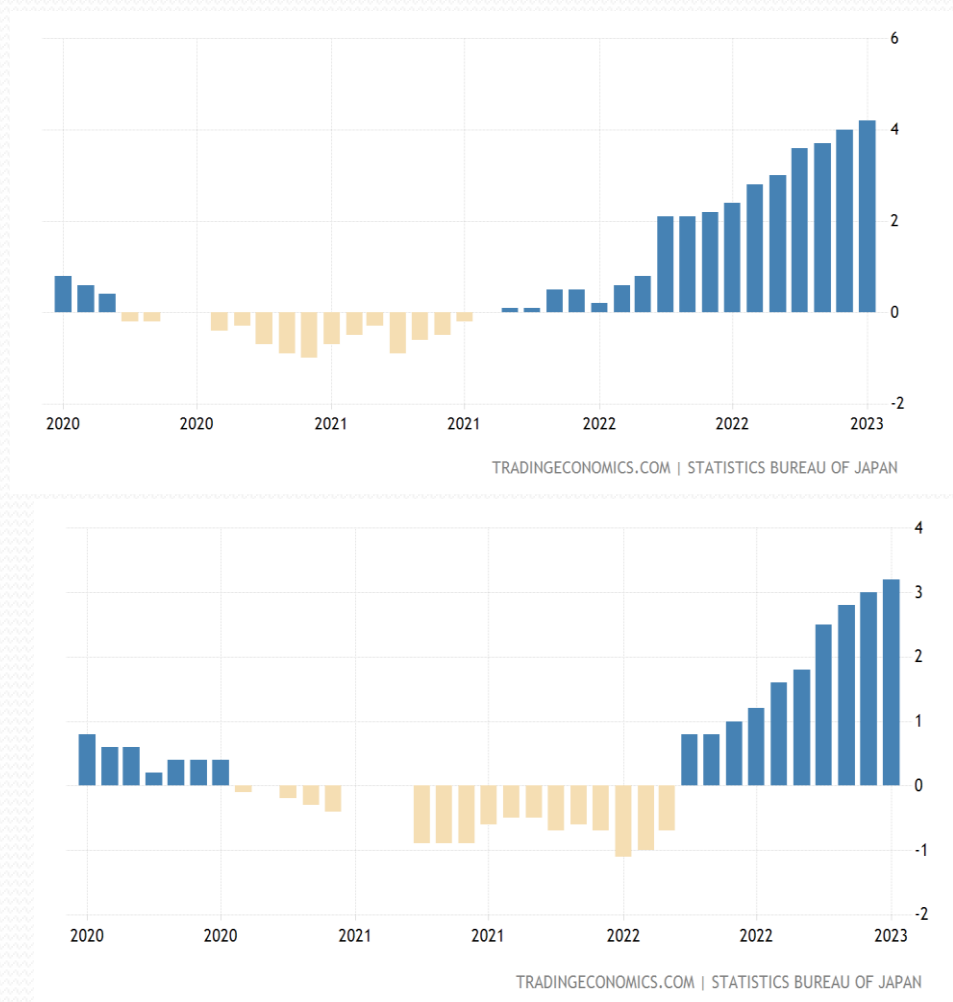
12. CPIは教養娯楽など全般に伸びが加速

①1月のコア消費者物価(生鮮食品を除く総合)の前年比(右上図)は+4.2%と前月より+0.2ポイント伸びが高まる。前月比は+0.3%。

②生鮮食品及びエネルギーを除く総合(コアコア)の前年比(右下図)は+3.2%で前月より+0.2ポイント伸びが高まる。前月比は+0.4%。

③消費者物価総合の前年比は+4.3%と前月より+0.3ポイント伸びが高まる。前月比は+0.4%。エネルギーの前年比は+14.6%、寄与度は+1.17%。食料の前年比は+7.3%で寄与度は+1.96%。

④項目別前年比で上昇は火災・地震保険料+11.2%、食用油+31.7%、都市ガス代+35.2%、電気代+20.2%、携帯電話機+21.7%。



V マーケット動向

1. 植田体制でも緩和継続との見方から円安が進む



2. ユーロは回復傾向一服で下落



3. 人民元は回復傾向が頭打ち



4. NYダウはFed利上げ不透明で横ばい推移



5. 日経平均は円安に連れて上昇の動き



6. 独株価 (DAX) は回復傾向が続く



7. 上海株価は回復後の踊り場局面



8. 米長期金利は再び4%台への上昇の動き



9. 日本の長期金利は許容変動幅の上限



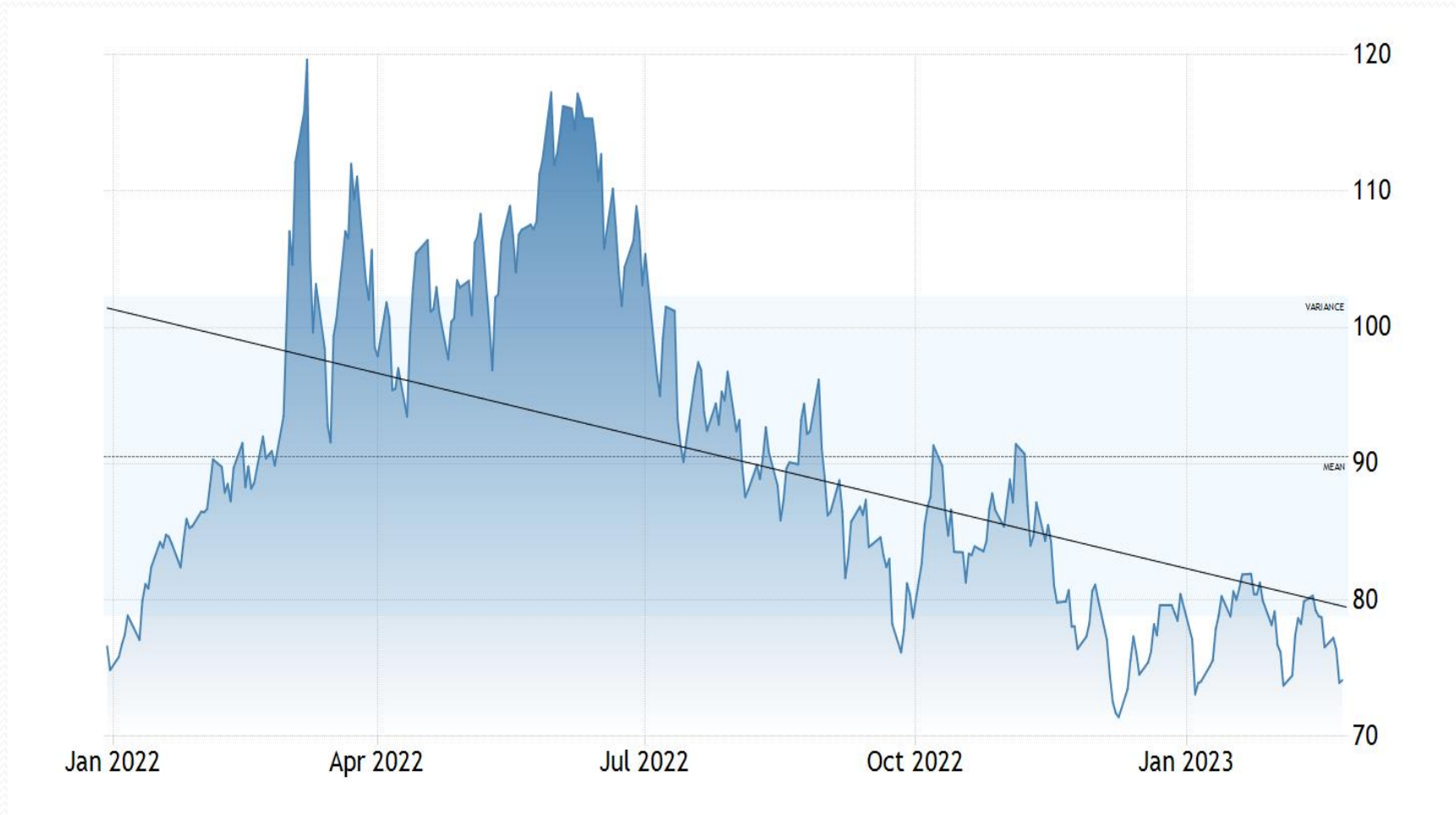
10. 独長期金利は再び上昇に向かう



11. 中国の長期金利は高止まり続く



12. 原油価格 (WTI) は70～80ドルのレンジ推移



13. 金価格は米利上げ続行予想で反落





完